

講義要目

SYLLABUS

建築設備科



2025年4月

岩手県立産業技術短期大学校 水沢キャンパス

Iwate Industrial Technology Junior College
Mizusawa Campus

建築設備科からのメッセージ

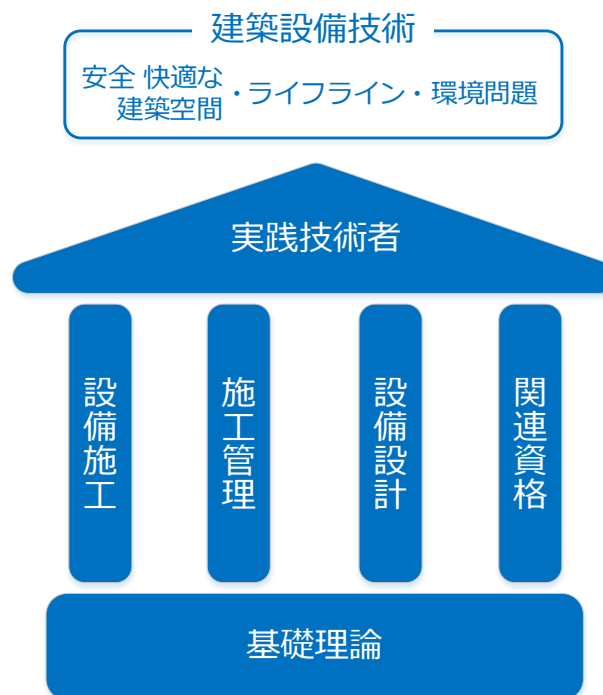
建築設備技術は、住宅、マンション、店舗、工場などの建築空間の環境を創造する技術です。近年、建築空間に対する社会的要請はますます高くなってきており、特に設備業界はライフラインを支える技術としても必要不可欠な分野です。そのため、建築の専門分野をベースに有機的に結合した知識、技術、技能を持つ施工作业から施工管理、さらには設備設計の出来る、実践力と創造力を兼ね備えた人材が求められています。

このような現状を踏まえ、建築専門分野の知識、建築設備施工、設備設計などの実務に重点を置き、安全性、経済性及び利便性を追求できる実践技術者を育成します。

施工・管理分野では、国家検定（2級建築配管技能士、2級冷凍空気調和機器施工技能士）や国家資格（管工事・建築・土木施工管理技士）をはじめとする各種資格取得を目指し、施工現場で役立つ実践力を養います。また、技能五輪予選に積極的に参加するなど、常に目標を高く持てる環境を提供しています。

設備設計分野では、設備CAD等のコンピュータを活用して、環境計画、設計に関する技術を習得します。

また、SDGs 17の目標の中で建設業が果たす役割である「安心安全な社会」「持続可能な社会」「誰一人残さない（インクルーシブな）社会」の実現を目指すため、環境工学をベースに空気、水、光、熱などの知識を習得し、建築空間環境と人間の関わりを学び、環境問題について自ら考える能力を養います。



建築設備科 履修科目及び単位数

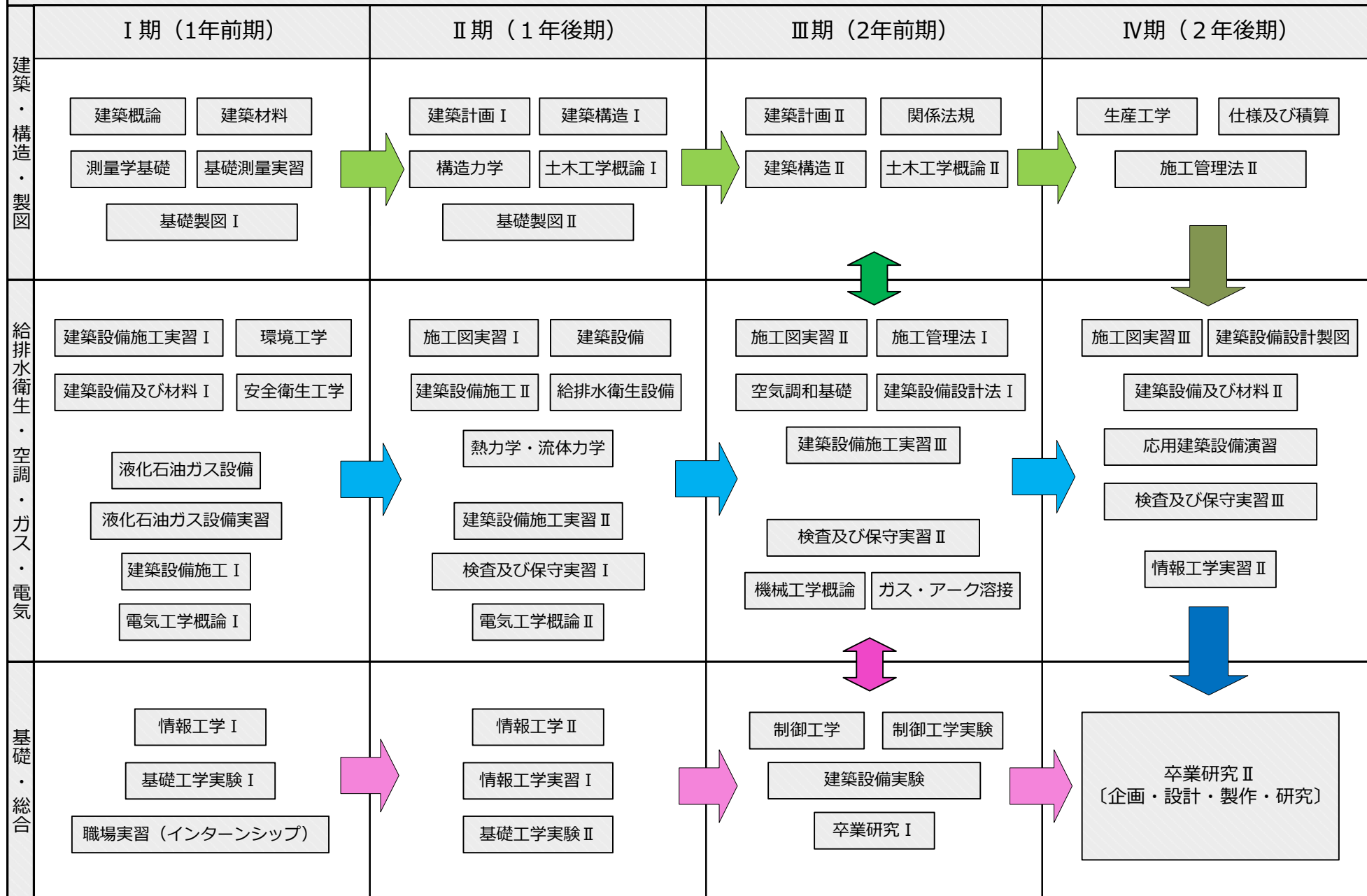
令和7年度入学生

履修科目	単位数	1年次		2年次		備考	科目番号	
		I期	II期	III期	IV期			
一般教育科目	職業社会論	2		2			般01-1・2	
	経済学	2	2				般02	
	数学 I・II	3	2	1			般03-1・2	
	物理学	1	1				般04	
	英語 I・II	4	2	2			般07-1・2	
	保健体育 I・II・III	6	2	2	2		般08-1・2・3	
	一般教育科目合計	18	9	7	2		一般(8001)	
専門教育科目	建築概論	2	2			*1 *2	8002	
	情報工学 I・II	2	1	1			8003~8004	
	環境工学	2	2			*2	8005	
	構造力学	2		2		*1 *2	8006	
	建築計画 I	2		2		*1 *2	8007	
	建築構造 I	2		2		*1 *2	8008	
	建築材料	2	2			*1 *2	8009	
	建築設備	2		2		*1 *2	8010	
	仕様及び積算	2			2	*1 *2	8011	
	生産工学	2			2	*2	8012	
	安全衛生工学	2	2			*1 *2	8013	
	関係法規	2			2	*1 *2	8014	
	空気調和基礎	2			2	*2	8015	
	機械工学概論	2			2		8016	
	電気工学概論 I・II	3	2	1		*1	8017~8018	
	土木工学概論 I・II	2		1	1	*1	8019~8020	
	測量学基礎	1	1			*1 *2	8021	
	建築計画 II	2			2	*2	8022	
	建築構造 II	2			2	*2	8023	
	建築設備及び材料 I・II	4	2			2 *2	8024~8025	
	制御工学	2			2	*1	8026	
	建築設備施工 I・II	4	1	3		*2	8027~8028	
	熱力学及び流体力学	2		2		*1	8029	
	液化石油ガス設備	4	4			*1	8030	
	建築設備設計法	2			2	*2	8031	
	施工管理法 I・II	8			3	5	8032~8033	
	応用建築設備演習	2				2 *2	8034	
	基礎工学実験 I・II	4	2	2		*1 *2	8035~8036	
	基礎製図 I・II	4	2	2		*1 *2	8037~8038	
	情報工学実習 I・II	4		2		2 *1	8039~8040	
	安全衛生作業法	他の実技に包括して実施						
	基礎測量実習	1	1				*1	8041
	建築設備実習	4			4		*1 *2	8042
	制御工学実習	4			4			8043
施工図実習 I・II・III	6		2	2	2	*1 *2	8044~8046	
建築設備施工実習 I・II・III	10	1	6	3		*1 *2	8047~8049	
検査及び保守実習 I・II・III	9		2	2	5	*2	8050~8052	
液化石油ガス設備実習	3	3				*1	8053	
建築基礎製図	3			3		*2	8054	
建築設備設計製図	4				4	*2	8055	
職場実習	2	2				*1	8056	
卒業研究 I・II	14			1	13	*1	8057~8058	
専門教育科目合計	138	30	32	37	39			
特別教科	4	1	1	1	1			
合計()内: 必取得単位数	160	40	40	40	40	(84)		

注) *1記号は必取得単位科目を示す。

*2記号は二級建築士試験及び木造建築士受験に必要な科目を示す。(分野別に最低取得単位数がある。)

建築設備科 専門教科関連図



年 度	2025	科目番号	般 01-1
科 目 名	職業社会論（前半） （マナー・コミュニケーション）	科目種別	一般（生産技術科、電気技術科、建築設備科）
科目名：英語	Occupation & Society	所 属	with Color
担当教員名	嶋田佳子		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2単位のうち8回分		
授業の到達目標	<p>「社会人基礎力」の3つの能力要素を身に着けるため、職業人として最低限必要な知識と基本的素養の取得を目指し、次の事項を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「チームで働く力」を身に着けるため、コミュニケーション能力向上を目標に、「話す」「聞く」能力と、良い人間関係を作るための能力を身に着け、就職試験の面接対策に役立てることができる。 2 「前に踏み出す力」、「考え抜く力」を身に着けるため、一般社会において、主体性を持ちながら組織と関わる時の心得を習得し、直面する就職活動の中で自分の力を最大限に発揮することができる。 3 接遇マナー学習を通じ、職業人として心構えについて習得し、実社会とのミスマッチを最小限にすることができる。 		
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 働く目的と職業人としての心構えについて、演習形式で学ぶ。 2 一般社会はもとよりビジネスシーンで求められる「正しい話しことば」をテキスト及び実技で学ぶ。 3 面接実践に主力を置く授業スタイルを取り入れる。課題を提示し、個人解答や集団解答の中でコミュニケーション力を育てる方式を取り入れる。 4 幅広い景観を通して培われた職業人のあるべき姿について講和を中心とした授業を取り入れる。 		
キ ー ワ ー ド	社会人マナー、コミュニケーション		
授 業 計 画	<p>第1回 社会人としてのマナーの重要性、印象効果の実践 第2回 会話のスキルアップと公共の場での振る舞い 第3回 面接訪問のマナーと文書実務 第4回 名刺と茶菓の扱い、席次の知識・冠婚葬祭マナー 第5回 敬語、肯定的表現演習・電話対応のポイントと実践 第6回 ビジネスメールのポイントと実践 第7回 食事のマナーとダイバーシティへの理解 第8回 試験と解答</p>		
教科書、教材等	コミュニケーションマナー検定ワークブック付き（NPO 法人日本マナー・プロトコール協会）		
授 業 の 形 式	教科書、プリントによる講義形式及び実習により授業を進める。		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テストの結果及び授業態度を総合して評価する ・ 前半（マナー・コミュニケーション）と後半（就職活動の実務等）の成績を総合して期末成績とする。 		
履修の留意点	補足プリントがあるので各自ファイルを用意し、適宜整理すること。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	般 01-2
科 目 名	職業社会論（後半） （就職活動の実務）	科目種別	一般（生産技術科、電気技術科、建築設備科）
科目名：英語	Occupation & Society	所 属	金野 馨:ジョブカフェー関センター 原田 幸浩:キャリアコンサルタントはらた
担当教員名	金野 馨/原田 幸浩 ほか		
開講学期/単位数	Ⅱ期/2単位のうち10回分		
授業の到達目標	<p>「社会人基礎力」の3つの能力要素を身に着けるため、職業人として最低限必要な知識と基本的素養の取得を目指し、次の事項を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「チームで働く力」を身に着けるため、コミュニケーション能力向上を目標に、「話す」「聞く」能力と、良い人間関係を作るための能力を身に着け、就職試験の面接対策に役立てることができる。 「前に踏み出す力」、「考え抜く力」を身に着けるため、一般社会において、主体性を持ちながら組織と関わる時の心得を習得し、直面する就職活動の中で自分の力を最大限に発揮することができる。 接遇マナー学習を通じ、職業人として心構えについて習得し、実社会とのミスマッチを最小限にすることができる。 特に採用側の視点から就職活動の実践に役立つ履歴書記載、面接のポイントなど、就職活動の実践に向けた必要なスキルを身に着けることができる。 		
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 働く目的と職業人としての心構えについて、演習形式で学ぶ。 実践に主力を置く授業スタイルを取り入れる。課題を提示し、個人解答や集団解答の中でコミュニケーション力や就職活動の実践力を育てる方式を取り入れる。 幅広い景観を通して培われた職業人のあるべき姿について講話を中心とした授業を取り入れる。 上記のほか、就職活動に必要な各種ガイダンスも取り入れる 		
キ ー ワ ー ド	求人票の見方、自己PR、産業社会と雇用情勢、働き方の変化 SDGs、DX、AI、Society5.0		
授 業 計 画	<p>《原田 幸浩》</p> <p>第1回 自己分析指導 第2回 自己PRの書き方 第3回 面接実践指導(1) 第1～2回で考えた強みを言葉にする 第4回 面接実践指導(2) 前回からの修正及び志望動機(決まっていれば)を話す 第5回 面接実践指導(3) 強み等を再度話す</p> <p>《金野 馨》</p> <p>第6回 新視点で仕事や働き方全体像を把握 ～大きく変化する産業社会の実態を捉えること 第7回 新卒就活のポイントと働くために必要なこと ～新卒就職を成功させるためのポイントを捉えること 第8回 今後のあなたのキャリア形成に向けて ～将来まで含め、自らの仕事生活設計を構想できる資質を養う</p> <p>《講師未定》</p> <p>第9, 10回 就職活動に向けた服装マナー、就職ガイダンス、まとめ</p>		
教科書、教材等	各講師からの提供資料による		
授業の形式	プリント及びパワーポイントのプレゼン形式による講義形式及び実習により授業を進める。		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 受講状況（出欠状況含む）及び講師からの課題に対する提出状況で評価する。 前半（マナー・話し言葉）と後半（就職活動の実務等）の成績を総合して期末成績とする。 		
履修の留意点	実習は実践形式で行うので、しっかりとした職業観を持つこと。		

参考・推薦図書等	
----------	--

年 度	2025	科目番号	般 02
科 目 名	経済学	科目種別	一般（生産技術科、建築設備科）
科目名：英語	Economics	所属	個人
担当教員名	鈴木 智香		
開講学期/単位数	I期/2単位(20回)		
授業の到達目標	<p>本授業の到達目標は以下の4点である。</p> <p>第1に資本主義社会の成立と発展を歴史的に説明できる。</p> <p>第2に経済学の基礎理論を理解し、資本主義社会の仕組み(商品流通を含む)と市場メカニズムの説明ができる。</p> <p>第3に企業における経営戦略とマーケティングについて理解し説明できる。</p> <p>第3に現代社会における経済的問題、企業が抱える諸問題を把握し解決策を模索できる。</p>		
授業の概要	<p>経済学は大きく理論、歴史、政策に分類される。本授業ではこれらの基礎を学ぶことに加え、近年複雑化する流通や経営戦略・マーケティングの基礎についても学習する。上記を学ぶため本授業では以下の構成をとる。はじめに、資本主義社会の成立と発展について説明する(第1回～第3回)。次に、古典派経済学からミクロ経済の基礎といった経済理論について説明する(第4回～第9回)。そして、マクロ経済の基礎について説明する(第10回～第13回)。その後、市場経済の発展に伴い複雑化する商品流通とその構造について説明する(第14回～第15回)。最後に、企業の経営戦略とマーケティングの役割について解説する(第16回～第19回)。</p> <p>以上の学習を通して、経済学、経営学の基礎に対する理解を深め、現代社会における経済的問題や企業が抱える諸問題を把握し解決策を模索できるようになってもらいたい。</p>		
キーワード	経済学、経済史、流通経済論、経営戦略、マーケティング		
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス 経済学とは</p> <p>第2回 資本主義社会の成立と発展① イギリスにおける資本主義社会の成立と産業革命</p> <p>第3回 資本主義社会の成立と発展② 日本における資本主義社会の成立と産業革命</p> <p>第4回 アダム・スミスと経済</p> <p>第5回 リカードの比較優位性の原理</p> <p>第6回 マルクスと労働価値説</p> <p>第7回 市場と市場メカニズム①</p> <p>第8回 市場と市場メカニズム②</p> <p>第9回 市場と市場メカニズム③</p> <p>第10回 金融の役割①</p> <p>第11回 金融の役割②</p> <p>第12回 政府の役割と財政①</p> <p>第13回 政府の役割と財政②</p> <p>第14回 現代の企業</p> <p>第15回 流通の基礎</p> <p>第16回 マーケティングの概要</p> <p>第17回 消費者行動</p> <p>第18回 販売価格</p> <p>第19回 販売促進</p> <p>第20回 試験</p>		
教科書、教材等	自作プリント(毎授業配布する)		
授業の形式	スクリーン映像利用の講義形式		
成績評価の方法	試験 60%、レポート 30%、受講態度 10%で評価する。		
履修の留意点	授業レジュメを読み復習すること。		
参考・推薦図書等	中矢俊博『入門書を読む前の経済学入門(第四版)』同文館出版、2017年 加藤義忠・齋藤雅通・佐々木保幸「現代流通入門」有斐閣ブックス、2007年		

年 度	2025	科目番号	般 03-1
科 目 名	数学 I	科目種別	一般（生産技術科、建築設備科）
科目名：英語	Mathematics I	所 属	個人
担 当 教 員 名	佐藤 克久		
開講学期／単位数	I 期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	数学的な思考方法を初歩から学び、正確、精密なものを生産しうる客観的な判断力を身につける。		
授業の概要	数学の基礎となる数と量の計算や方程式を復習し、計算を踏まえて関数を理解すると共に関数電卓の使い方を習熟する。さらに逆関数・極限・微分について考察し、これらの計算を習熟する。		
キ ー ワ ー ド	三角関数、指数関数、逆関数、対数関数、極限、微分		
授 業 計 画	第 1 回 講義方針説明、数学の基礎 I 第 2 回 数学の基礎 II 第 3 回 1 次式の数学 I 第 4 回 1 次式の数学 II 第 5 回 2 次式の数学 I 第 6 回 2 次式の数学 II 第 7 回 いろいろな式・グラフ・方程式 I 第 8 回 いろいろな式・グラフ・方程式 II 第 9 回 関数概説、三角関数 I 第 10 回 三角関数 II 第 11 回 指数関数 第 12 回 逆関数概説、対数関数 I 第 13 回 対数関数 II 第 14 回 微分概説、極限・微分、導関数 第 15 回 微分公式 第 16 回 関数の増減 第 17 回 いろいろな関数の微分 I 第 18 回 いろいろな関数の微分 II 第 19 回 微分の応用 第 20 回 期末試験		
教科書、教材等	これだけはおさえない 理工系の基礎数学 著者 北原直人 他 実教出版		
授業の形式	問題演習を交えた板書による講義。関数電卓を併用する。		
成績評価の方法	問題演習の状況、期末試験の成績と授業への取り組みを総合して評価する。		

履修の留意点	高校までの数学を復習すること。 適宜問題演習を実施するので取り組むこと。 第9回から第13回では関数電卓を持参すること。
参考・推薦図書等	高校までの数学教科書

年 度	2025	科目番号	般 03-2
科 目 名	数学Ⅱ	科目種別	一般（生産技術科、建築設備科）
科目名：英語	MathematicsⅡ	所 属	個人
担 当 教 員 名	佐藤 克久		
開講学期／単位数	Ⅱ期／1単位（10回）		
授業の到達目標	Ⅰ期の数学的な思考方法の訓練を踏まえ、道具としての数学的思考方法を生産活動へ活かせる適用力を身につける。		
授業の概要	Ⅰ期の極限・微分に引き続き積分について考察し、これらの計算を習熟する。		
キ ー ワ ー ド	微分、不定積分、定積分、リーマン和		
授 業 計 画	第 1 回 関数、微分の復習 第 2 回 不定積分概念、不定積分 第 3 回 置換積分と部分積分 第 4 回 いろいろな関数の積分 第 5 回 定積分概念、定積分Ⅰ 第 6 回 定積分Ⅱ 第 7 回 定積分と面積・体積Ⅰ 第 8 回 定積分と面積・体積Ⅱ 第 9 回 期末試験 第 10 回 まとめ		
教科書、教材等	これだけはおさえたい 理工系の基礎数学 著者 北原直人 他 実教出版		
授業の形式	問題演習を交えた板書による講義。		
成績評価の方法	問題演習の状況、期末試験の成績と授業への取り組みを総合して評価する。		
履修の留意点	高校までの数学を復習すること。 適宜問題演習を実施するので取り組むこと。		
参考・推薦図書等	高校までの数学教科書		

年 度	2025	科目番号	般 04
科 目 名	物理学	科目種別	一般（生産技術科、建築設備科）
科目名：英語	Physics I	所 属	個人
担当教員名	田村良明		
開講学期／単位数	I 期／1 単位（10 回）		
授業の到達目標	物理学の中でも、もっとも基礎となる力学を中心に授業を行う。力学とは、物体の運動を考える学問である。物体の運動を知ることが、状態の予測を行ったり、あらゆる現象を理解する基本となる。		
授業の概要	<p>1 身近な物理現象を取り上げ、それを解説する形式で進める。</p> <p>2 併せて1回の講義のなかで、講義と演習を織り交ぜながら進めていく。演習では、計算を多数行うことになるので、電卓の使用を必須とする。スマホの電卓でも良いが、試験ではスマホ使用禁止なので、電卓（√キー付き、できれば関数電卓）の利用が望ましい。</p>		
キ ー ワ ー ド	速度と加速度、ニュートンの運動法則、保存量		
授 業 計 画	<p>第1回 速度、加速度、変位量</p> <p>第2回 重さと力</p> <p>第3回 座標について</p> <p>第4回 ニュートンの運動法則</p> <p>第5回 運動量、運動エネルギー</p> <p>第6回 安定とは（位置エネルギー）</p> <p>第7回 回転運動、角運動量</p> <p>第8回 万有引力の法則、衛星の運動</p> <p>第9回 振動を考える</p> <p>第10回 期末試験（再試験・レポート課題含む）</p>		
教科書、教材等	基礎と演習 大学生の物理入門（共立出版）		
授業の形式	板書による講義形式、演習や実験装置を使った説明も行う。		
成績評価の方法	期末試験成績と授業への取り組み及び出席状況を総合して評価する。		
履修の留意点	授業中に取り上げる演習問題やレポート課題に積極的に取り組み、理解を深めるように努めること。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	般 05-1
科 目 名	数学 I	科目種別	一般（電気技術科 * 3）
科目名：英語	Mathematics I	所 属	個人
担当教員名	花田 英夫		
開講学期／単位数	I 期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	専門教科を学ぶために必要となる線形数学の基礎や各種関数とグラフ、及び微分法とその応用を身に着けること。		
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 高校数学の選択科目により各自の学力レベルに差があるため、最初に高校で行った基礎部分を復習する。 2 専門科目の理解に必要な線形数学の基礎を学習する。 3 各種関数のそれぞれの特徴をつかみ、グラフとして理解できるようにする。 4 最も重要である微分法には極限の理解から始めて、多くのコマ数を費やす。 		
キ ー ワ ー ド	数と式、三角関数、グラフ、指数関数、線形数学、極限、微分法		
授 業 計 画	第 1 回～第 3 回 数と式の計算 第 4 回～第 6 回 関数とグラフ 第 7 回～第 14 回 三角関数、指数関数、対数関数、極限 第 15 回～第 19 回 微分法とその応用 第 20 回 期末試験		
教科書、教材等	石村園子著「大学新入生のための微分積分入門」共立出版及び配布資料		
授業の形式	板書き及びレジメによる講義及び演習と学生自身による解説。		
成績評価の方法	期末試験成績だけでなく、授業中に行う演習、宿題の成績も考慮して総合評価する。		
履修の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1 ノート取りは必須。 2 ノートをもとに復習すること。 3 公式を使った計算を反復すること。 		
参考・推薦図書等	岡本和夫 監修「新版 微分積分 I」実教出版		

年 度	2025	科目番号	般 05-2
科 目 名	数学Ⅱ	科目種別	一般（電気技術科 * 3）
科目名：英語	MathematicsⅡ	所 属	個人
担 当 教 員 名	花田 英夫		
開講学期／単位数	Ⅱ期／1単位（10回）		
授業の到達目標	微分法と並んで積分法は専門科目で広く使われている。これらの応用例を示し、専門科目のより深い理解を図る。また重積分や簡単な微分方程式についても解説する。		
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1 積分法の応用例を多数示し、演習を行う。 2 重積分については実用的な部分に限定して説明し、専門科目やデータ処理で応用される微分方程式の例などを解説する。 		
キ ー ワ ー ド	積分法及びその応用、重積分、微分方程式		
授 業 計 画	第1回～第5回 積分法とその応用 第6回～第9回 重積分、微分方程式 第10回 期末試験		
教科書、教材等	石村園子著「大学新入生のための微分積分入門」共立出版及び配布資料		
授 業 の 形 式	板書き及びレジメによる講義形式及び演習と学生自身による解説。		
成績評価の方法	期末試験成績だけでなく、授業中に行う演習、宿題の成績も考慮して総合評価する。		
履 修 の 留 意 点	<ol style="list-style-type: none"> 1 ノート取りは必須。 2 ノートをもとに復習すること。 3 公式を使った計算を反復すること。 		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	般 06-1
科 目 名	物理学 I	科目種別	一般（電気技術科 *3）
科目名：英語	Physics I	所 属	個人
担 当 教 員 名	花田 英夫		
開講学期／単位数	I 期／1 単位（10 回）		
授業の到達目標	<p>専門科目を学ぶための物理学全般の基礎を身につける。 物理学の諸分野の基礎となる質点の力学を取り上げ、基本的な概念と物理法則の理解を深め、物理的な物の見方・考え方を身につけることができること。 また、ベクトル、微積分・微分方程式等の数学的方法により物理学を記述する方法、物理学の問題の解き方等の手法を理解することができること。</p>		
授業の概要	<p>力学分野では、力が働く下での質点の運動が、力学の基本法則（ニュートンの運動方程式）からどのように決まり、どのように表わされるかという点を中心に講ずる。運動を記述する基本的概念（変位、速度、加速度、等）とその数学的表わし方、運動の法則（ニュートンの運動方程式）とその解法について述べる。自由落下運動、放物運動、単振動、強制振動、減衰振動、円運動等の代表的な運動について、運動方程式の解法を解説する。運動量保存の法則、力学的エネルギー保存の法則について、その適用範囲とともに解説する。剛体の運動、万有引力による運動について、運動方程式の解法と運動と特徴について解説する。</p>		
キ ー ワ ー ド	運動量保存の法則、力学的エネルギー保存の法則、運動方程式		
授 業 計 画	第 1 回 物理学とは何か（物理学を学ぶ目的、力学の基礎概念） 第 2 回 変位、速度、加速度（放物運動、等速円運動における変位、速度、加速度） 第 3 回 運動の法則（運動の 3 法則、重力加速度） 第 4 回 運動とエネルギー（エネルギー保存の法則、仕事とエネルギー、単振動と振り子の運動） 第 5 回 運動量と力積（運動量と力積の関係、衝突と運動量の保存） 第 6 回 万有引力（万有引力の法則、地球の重力） 第 7 回 天体の運動（ケプラーの法則、人工衛星の運動） 第 8 回 剛体の運動（剛体の運動方程式、力のモーメント） 第 9 回 剛体の回転（回転の運動エネルギー、角運動量） 第 10 回 試験		
教科書、教材等	大槻義彦著「基礎教養 物理学」学術図書出版社		
授業の形式	板書による講義形式、実験装置を使った説明や演習も行う。		
成績評価の方法	期末試験成績と授業への取り組み及び授業への積極性を総合して評価する。		
履修の留意点	授業中に取り上げる演習問題やレポート課題に積極的に取り組み、理解を深めるように努めること。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	般 06-2
科 目 名	物理学Ⅱ	科目種別	一般（電気技術科 * 3）
科目名：英語	PhysicsⅡ	所 属	個人
担 当 教 員 名	花田 英夫		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	専門科目を学ぶための物理学全般の基礎を身につける。 弾性体力学、流体力学、電磁気学、波動光学、熱学、相対論、量子論等の各分野の初歩を理解する。		
授 業 の 概 要	<p>物理学Ⅱでは、各分野を広くカバーするように次のような分野について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 弾性体・流体力学 変形する物体と流れる液体、気体の簡単な物理的概念について解説する。 電磁気学 静電場の性質、電流と磁場の相互作用、電流による力について解説する。 波動光学 音波、電磁波、海の波、地震波等の波動現象の物理について解説する。 熱学 熱と温度、物質の状態量、仕事と熱、などの基本的考え方について解説する。 相対論・量子論・素粒子物理学 特殊相対性理論、黒体放射・光電効果等の前期量子論、原子の構造、原子核と素粒子、原子核の反応、物質とエネルギー等について概説する。 		
キ ー ワ ー ド	万有引力、弾性体、流体、波動、電磁波と光、熱学、原子・原子核		
授 業 計 画	<p>第1回 弾性体の力学（フックの法則、圧力と張力、弾性体の性質）</p> <p>第2回 流体力学（流線と流管、定常流、連続の式、ベルヌーイの定理）</p> <p>第3回 波と光Ⅰ（波を表す基本式、波としての光の性質）</p> <p>第4回 波と光Ⅱ（光の反射と屈折、全反射、光の干渉）</p> <p>第5回 熱学Ⅰ（気体の熱的性質、気体の状態方程式、比熱、相転移）</p> <p>第6回 熱学Ⅱ（熱力学の第一法則、第二法則、カルノーサイクル）</p> <p>第7回 静電場Ⅰ（静電場と電荷、クーロンの法則、導体と自由電子）</p> <p>第8回 静電場Ⅱ（ガウスの法則、電場と電位）</p> <p>第9回 誘電体（誘電体の分極、キャパシタの電気容量）</p> <p>第10回 電流と磁場Ⅰ（電流と磁場の相互作用、磁石に働く力、アンペールの法則）</p> <p>第11回 電流と磁場Ⅱ（ビオサバールの公式、円環電流の磁場、ソレノイドの磁場）</p> <p>第12回 電流と磁場Ⅲ（磁束密度と磁界、磁荷と磁気感受率）</p> <p>第13回 電流と力Ⅰ（ローレンツ力、レンツの法則、ファラデーの法則）</p> <p>第14回 電流と力Ⅱ（電線間に働く力、発電の原理、相互誘導と自己誘導）</p> <p>第15回 電磁波（電磁波の発生原理、電磁波の速さ）</p> <p>第16回 相対論（特殊相対性理論、物質とエネルギー）</p> <p>第17回 量子論（前期量子論、原子の構造）</p> <p>第18回 原子核（原子核の構造、原子核の性質、原子核の反応）</p> <p>第19回 素粒子（素粒子の種類、加速器、物質とエネルギー）</p> <p>第20回 試験</p>		
教科書、教材等	大槻義彦著「基礎教養 物理学」学術図書出版社		
授 業 の 形 式	板書による講義形式、実験装置を使った説明や演習も行う。		
成績評価の方法	期末試験成績と授業への取り組み及び授業への積極性を総合して評価する。		
履 修 の 留 意 点	授業中に取り上げる演習問題やレポート課題に積極的に取り組み、理解を深めるように努めること。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	般 07-1
科 目 名	英語 I (英会話)	科目種別	一般 (生産技術科、電気技術科、 建築設備科)
科目名 : 英語	English I	所 属	アクティブイングリッシュアカデ ミー
担 当 教 員 名	レディオット・ステファニー、及川 マギー		
開講学期/単位数	I 期 / 2 単位 (20 回)		
授業の到達目標	<p>社会人基礎力を身に着けるうえでは国際的な感覚を養うことが肝要であるため、日常会話や業種に活用できる最小限後の英語力を身に着ける必要性が認められることから、基礎的な英語力を、日常会話からの例文の音読・復唱により、知識のみではなく実技として習得する。</p> <p>また、併せて後期の授業を効果的に進めるために、基礎的な英会話ができる。</p>		
授業の概要	<p>復唱・ペアワーク等で実際に声を出しながら、日常会話の基礎となる文法・語彙・発音を再確認する。</p>		
キ ー ワ ー ド	日常英会話		
授 業 計 画	<p>○ 基本的な日常会話、特に実践的なコミュニケーション (意思伝達) な英語運用能力</p> <p>第 1 回 英語で挨拶、自己紹介、お互いについて英語で質問・名前ゲーム 第 2 回 英語力テスト</p> <p>○ ネイティブに通じる発音練習</p> <p>第 1~4 回 発音のコツ、発音とスペルの関係 第 5~7 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的な英文法 『be 動詞、現在形、過去形 (不規則動詞)、現在進行形、過去進行形、受動態、現在完了形、文形、法助動詞 (肯定・否定・yes/no 疑問・wh-疑問)』 ・ 単 語 動詞、スポーツ、楽器、天気など ・ 以上の要素を用いた会話練習及び日英及び英日の基本的な作文練習 <p>第 8~9 回 可算名詞、不可算名詞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単語-食べ物、衣類、文房具など ・ 以上の要素を用いた会話練習及び日英及び英日の基本的な作文練習 <p>第 10~15 回 前置詞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単語-数、数え方、月、曜日、場所など ・ 以上の要素を用いた会話練習及び日英及び英日の基本的な作文練習 <p>第 16 回 期末試験 第 17~18 回 解答・解説及び日本 (郷土) の文化や歴史の簡単な紹介</p>		
教科書、教材等	Amerikan Headway Starter : Third Edition (OXFORD UNIVERSITY PRESS)		
授業の形式	教科書に準じて講義を進め、会話練習をペアワークで行う。		
成績評価の方法	小テスト、期末試験、出欠・受講状況により評価する。		
履修の留意点	授業外でも自主的に声に出して復習をすること。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	般 07-2
科 目 名	英語Ⅱ（工業英語）	科目種別	一般（生産技術科、電気技術科、 建築設備科）
科目名：英語	English II	所 属	アクティブイングリッシュアカデ ミー
担 当 教 員 名	レディオット・ステファニー、及川 マギー		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	<p>社会人基礎力を身に着けるうえでは国際的な感覚を養うことが肝要であるため、日常会話や業種に活用できる最小限後の英語力を身に着ける必要性が認められることから、英語で読む、聞く、話す、書くの4技能を高めることができる。 特に実践的なコミュニカティブ（意志伝達）な英語運用能力の向上を目指す。 将来、海外の生産現場に出ても円滑に適応可能な英会話能力を身につける。</p>		
授業の概要	<p>以下の項目について、時系列で習得していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術英語に必要な基本的な語彙や数字の表現方法 ・ 技術英語に必要な英文法（文型、分詞構文、使役動詞、前置詞など） ・ 日英及び英日の作文練習（主に技術英語） ・ 生産現場での基本的な指示文、注意事項 ・ 生産現場の基本的な取扱説明書・仕様書 ・ 生産現場での基本的な説明 ・ 科ごとに上記の内容の深化 		
キ ー ワ ー ド	技術英語、生産現場での英語		
授 業 計 画	<p>第1回 英語で挨拶・自己紹介・授業の流れについて 第2回 基礎文法：可算/不可算名詞 第3回 基礎文法：動詞 第4回 基礎文法：前置詞 第5回 接頭辞・接尾辞 第6回 操作マニュアル・指示文 第7回 操作マニュアル・指示文 実践 第8回 プレゼン用の文章・実践 第9回 プレゼンテーションの練習 第10回 広告文 第11回 数：日付の書き方、数式の読み方等 第12回 ローマ数字・ローマ神話由来の単語 第13回 英語で物理 第14回 英語で物理 第15回 後期の復習 第16回 期末試験 第17回 試験の解答・解説</p> <p>（2回～第14回） 科書の他、関連した単語リストやプリントを用いる。 内容に適した場合は会話・プレゼンなどスピーキングの練習も行う。</p>		
教科書、教材等	講師からのプリントによる。		
授業の形式	教科書、単語リスト、プリントなどを用いて講義を進める。		
成績評価の方法	小テスト、期末試験、出欠・受講状況により評価する。		
履修の留意点	分からない単語は積極的に辞書で調べること。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	般 08-1、般 08-2
科 目 名	保健体育 I・II	科目種別	一般（生産技術科、電気技術科、建築設備科）
科目名：英語	Health & Physical Education I・II	所 属	個人
担当教員名	小野寺 純子		
開講学期／単位数	I 期／2 単位（20 回） II 期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	<p>社会人基礎力を身に着けるためには、心身とも健康維持が不可欠であることから、以下のことについて身に着けられることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯スポーツを実践するための知識と技能を習得する。 ・ 自らの健康を適切に管理し、これからの健康課題に対処していくための資質や能力を育成する。 		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種目、技能レベルによってグループに分け、それぞれに課題を与えて解決を図っていく。 また、各時間の最後はゲームを行い、課題解決の程度を確認する。 ・ 保健体育 I、II では途中に実験を行い、有効な練習方法等を探っていく。 ・ 期末には保健の授業を行い、これからの健康課題の把握、解決方法の習得を目指し、将来に向けたヘルスプランの構築を図る。 		
キ ー ワ ー ド	生涯スポーツ		
授 業 計 画	<p><u>保健体育 I</u></p> <p>第 1 回 オリエンテーション(体育理論)</p> <p>第 2～6 回 ネット型スポーツ 「バドミントン」スキルチェック、課題提示、課題解決学習、ゲーム</p> <p>第 7・8 回 体育学実験(バレー、個人技能)</p> <p>第 9～14 回 ネット型スポーツ 「バレーボール」スキルチェック、課題提示、課題解決学習、ゲーム</p> <p>第 15 回 実技</p> <p>第 16・17 回 保健</p> <p>第 18 回 保健まとめ</p> <p><u>保健体育 II</u></p> <p>第 1 回 オリエンテーション(体育理論)</p> <p>第 2～6 回 ゴール型スポーツ 「サッカー」スキルチェック、課題提示、課題解決学習、ゲーム</p> <p>第 7・8 回 体育学実験(サッカー、集団技能)</p> <p>第 9～13 回 「フットサル」「バスケットボール」スキルチェック、課題提示、課題解決学習、ゲーム</p> <p>第 14 回 実技</p> <p>第 15・16 回 保健</p> <p>第 17 回 保健まとめ</p>		
教科書、教材等			
授業の形式	実技または教員の指示で授業を進める。		
成績評価の方法	授業への積極性、授業への取組み及び実技で評価する。		
履修の留意点	実技中にケガ等起こさないよう、実習場所の整理整頓に努めるとともに、体調管理に気をつけること。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	般 08-3
科 目 名	保健体育Ⅲ	科目種別	一般（生産技術科、電気技術科、建築設備科）
科目名：英語	Health & Physical EducationⅢ	所 属	個人
担当教員名	小野寺 純子		
開講学期／単位数	Ⅲ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	<p>社会人基礎力を身に着けるためには、心身とも健康維持が不可欠であることから、以下のことについて身に着けられることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯スポーツを実践するための知識と技能を習得する。 ・ 自らの健康を適切に管理し、これからの健康課題に対処していくための資質や能力を育成する。 		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種目、技能レベルによってグループに分け、それぞれに課題を与えて解決を図っていく。 また、各時間の最後はゲームを行い、課題解決の程度を確認する。 ・ 期末には保健の授業を行い、これからの健康課題の把握、解決方法の習得を目指し、将来に向けたヘルスプランの構築を図る。 		
キ ー ワ ー ド	生涯スポーツ		
授 業 計 画	<p><u>保健体育Ⅲ</u></p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2～17回 実技・各種目の大会</p> <p>第18・19回 保健</p> <p>第20回 保健まとめ</p>		
教科書、教材等			
授業の形式	実技または教員の指示で授業を進める。		
成績評価の方法	授業への積極性、授業への取組み及び実技で評価する。		
履修の留意点	実技中にケガ等起こさないよう、実習場所の整理整頓に努めるとともに、体調管理に気をつけること。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8002
科 目 名	建築概論	科目種別	専門（必取得） * 2
科目名：英語	Introduction to architecture	所 属	建築設備科
担当教員名	三浦 和洋		
開講学期／単位数	I 期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	日本と西洋における建築の歴史の概要を学び、各時代における建築様式等についての基礎知識を理解することができる。		
授業の概要	各国の各時代に培われてきた、建築に関する文化や社会的背景、技能・技術の発展を学習し、各時代の設計思想・施工技術・表現様式等の特徴や変遷の意味を学ぶ。		
キ ー ワ ー ド	建築様式、歴史的背景		
授 業 計 画	第 1 回 授業内容の紹介 第 2 回 西洋建築史（古代：オリエント、エジプト、ギリシア、ローマ） 第 3～4 回 同（中世：ビザンツ建築、ロマネスク建築、ゴシック建築） 第 5～6 回 同（近世：ルネサンス建築、バロック建築、新古典主義建築） 第 7～8 回 日本建築史（古代：寺院建築、神社建築、寝殿造） 第 9～10 回 同（中世：大仏様、禅宗様、折衷様、中世の神社） 第 11～12 回 同（近世：城郭建築、書院造、茶室） 第 13～14 回 近代建築史（西洋の近代建築） 第 15～16 回 同（日本の近代建築） 第 17～19 回 同（戦後の建築） 第 20 回 期末試験		
教科書、教材等	自作プリント等		
授業の形式	自作プリント等により進める。		
成績評価の方法	期末試験及びレポート等で評価する。		
履修の留意点	建築構造や基礎製図、建築計画につながる科目である。		
参考・推薦図書等	『カラー版図説「建築の歴史」西洋・日本・近代』学芸出版社		

年 度	2025	科目番号	8003
科 目 名	情報工学 I	科目種別	専門
科目名：英語	Information engineering I	所 属	建築設備科
担当教員名	内田 直史		
開講学期／単位数	I 期／1 単位 (10 回)		
授業の到達目標	<p>建築設備分野において、CADをはじめ、電子申請など様々な業務でコンピュータが利用されており、コンピュータを利用するだけでなく、仕組みや働きを理解するために、コンピュータのハードウェアとソフトウェアの基礎及び専門分野に必要な活用方法を理解することができる。</p>		
授業の概要	<p>パソコンの構成／周辺機器では、実際のパソコンの中身と比較しながら仕組みと働きを理解していく。また、それを取巻く周辺機器・インターフェースについて説明していく。</p> <p>オペレーティングシステムでは、Windows を中心に用語、ファイル管理を理解する。ネットワークでは、インターネットの仕組み、LAN、ブロードバンド、電子メールについて学習する。</p>		
キ ー ワ ー ド	2 進数、セキュリティ、ICT		
授 業 計 画	<p>第 1 回 導入・パソコンの構成 第 2 回 ビットとバイト・メモリとハードディスク 第 3 回 周辺機器・画面と画素・インターフェース 第 4 回 オペレーティングシステムの働きと環境 第 5 回 フォルダ、ファイル管理・ユーザ管理 第 6 回 OS 操作に係る用語・インターネットと LAN 第 7 回 画像の取り込みとソフトの利用 第 8 回 ブロードバンド・電子メール・ホームページ 第 9 回 定期試験 第 10 回 試験解説とまとめ</p>		
教科書、教材等	自作プリント等		
授業の形式	自作プリント等により進める。		
成績評価の方法	定期試験及び授業への積極性を評価する。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8004
科 目 名	情報工学Ⅱ	科目種別	専門
科目名：英語	Information engineeringⅡ	所 属	建築設備科
担当教員名	内田 直史／古川 大史		
開講学期／単位数	Ⅱ期／1単位 (10回)		
授業の到達目標	情報工学Ⅰに続き、特にコンピュータのソフトウェアの基礎及び専門分野に必要な活用方法を理解することができる。		
授業の概要	アプリケーションソフトの構成と操作方法について演習を交えながら学習する。		
キ ー ワ ー ド	Word、Excel、PowerPoint		
授 業 計 画	第1～3回 アプリケーションソフト (Word) の操作方法、課題演習 第4～6回 アプリケーションソフト (Excel) の操作方法、課題演習 第7～9回 アプリケーションソフト (Excel) の操作方法、課題演習 第10回 まとめ		
教科書、教材等	自作プリント等		
授業の形式	自作プリント等により進める。		
成績評価の方法	定期試験及び授業への積極性を評価する。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8005
科 目 名	環境工学	科目種別	専門 * 2
科目名：英語	Environmental engineering	所 属	建築設備科
担当教員名	角田 映子		
開講学期／単位数	I 期／2 単位 (20 回)		
授業の到達目標	住環境において、人間が生理的に安全で健康に、かつ快適に過ごすための環境についての基礎知識を理解することができる。		
授業の概要	2 級管工事施工管理技士合格を目指して、環境に関する出題分野を中心に問題演習を交えながら学ぶ。		
キ ー ワ ー ド	気候、日照、伝熱、湿り空気		
授 業 計 画	第 1 回 授業の内容紹介 第 2～3 回 気候、大気圧、気温、湿度、風、降水 第 4～8 回 日照、日射、熱、伝熱 第 9～11 回 空気環境、換気、排煙 第 12～15 回 水環境、地球環境問題 第 14～16 回 湿り空気、結露 第 17～19 回 音、振動、腐食 第 20 回 期末試験		
教科書、教材等	『管工事施工管理技術テキスト 技術編』（財）地域開発研究所		
授業の形式	教科書、プリント等によって授業を進める。		
成績評価の方法	演習課題及び期末試験等で評価する。		
履修の留意点	関連科目の「基礎工学実験」「建築設備実験」に結びついた学習とする。		
参考・推薦図書等	『2 級建築施工管理技士学科テキスト』日建学院		

年 度	2025	科目番号	8006
科 目 名	構造力学	科目種別	専門（必取得） * 2
科目名：英語	Structural mechanics	所 属	建築設備科
担当教員名	長門 三喜男		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 静定構造物（静定梁、ラーメン、トラス）を中心とした構造解析、断面の性質と力学的性質さらに不静定構造物の弾性解析など、力学に関する基本的知識を理解することができる。 		
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築構造や建築製図で学習した構造物を始め、身の回りの事例を結びつけて、目に見えない力をイメージさせることにより、力学に対する理解を深める。 ・ 単元ごとに演習レポート及び小テストを行い、学習の定着度を確認しながら授業を進める。 		
キ ー ワ ー ド	構造力学、静定構造物、静定梁、ラーメン、トラス		
授 業 計 画	第1回 ガイダンス 第2回 力と力の合成と分解、力のモーメント 第3回 力のつりあい 第4回 構造物と荷重、支点と反力 第5回 反力の求め方 第6回 安定と静定・応力とその求め方と表し方 第7～9回 単純梁（集中荷重・等分布荷重・モーメント荷重） 第10～11回 片持梁（集中荷重・等分布荷重・モーメント荷重） 第12～13回 静定ラーメン（集中荷重・等分布荷重・モーメント荷重） 第14～15回 静定トラス（節点法・図解法・切断法） 第16～17回 圧縮材と座屈 第18回 たわみとたわみ角 第19回 不静定梁 第20回 期末試験		
教科書、教材等	『やさしい構造力学』学芸出版		
授 業 の 形 式	教科書、プリント等によって授業を進める。		
成績評価の方法	演習レポート及び期末試験等で評価する。		
履 修 の 留 意 点	「建築構造」及び「基礎製図」等と関連させて学ぶことにする。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8007
科 目 名	建築計画 I	科目種別	専門（必取得） * 2
科目名：英語	Building plan I	所 属	建築設備科
担 当 教 員 名	長門 三喜男		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・居住系建築物の一つである独立住宅の計画について、基礎的知識を理解することができる。 		
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・木造在来工法の独立住宅について、必要な諸室の基本的な計画手法を学ぶ。 ・与えられた条件に基づく住宅プランの演習により、独立住宅の全体計画を学ぶ 		
キ ー ワ ー ド	独立住宅		
授 業 計 画	第 1 回 授業内容の紹介 第 2 回 独立住宅の配置計画（敷地のゾーニング） 第 3 回 独立住宅の平面計画（ゾーニングとエスキス） 第 4 回 独立住宅の諸室の計画（規模と動線計画） 第 5～7 回 居間・食事室・台所（規模、寸法、設備等） 第 8～9 回 主寝室・子供室（規模、寸法、設備等） 第 10～11 回 浴室・便所・洗面脱衣室（規模、寸法、設備等） 第 12～13 回 玄関・廊下・階段・収納（規模、寸法、設備等） 第 14～19 回 演習（住宅プランの作成） 第 20 回 期末試験		
教科書、教材等	『やさしい建築計画』学芸出版		
授 業 の 形 式	教科書、プリント等によって授業を進める。		
成績評価の方法	レポート及び期末試験等で評価する。		
履 修 の 留 意 点	建築基礎製図及び建築設備設計製図につながる科目である。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8008
科 目 名	建築構造 I	科目種別	専門（必取得） * 2
科目名：英語	Building structure I	所 属	建築設備科
担当教員名	三浦 和洋		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	在来軸組工法及び2×4工法についての概要を理解することができる。		
授業の概要	<p>近年建築工法が多様化しているが、木構造は今なおわが国にとって中心的な工法である。</p> <p>この講義ではわが国伝来の在来軸組工法を中心に、ツーバイフォーに代表される新しい木造枠組工法についても学ぶ。</p> <p>在来軸組工法を中心に講義を展開し、その成立と完成について歴史的背景も合わせて学び、特徴と利点、欠点を他の工法と比較対照する。</p> <p>部材名称は建築における言語であるので、着実に身につけさせたいと思う。納まりや構造の特徴については、基礎製図等と関連させて学習する。</p>		
キ ー ワ ー ド	在来軸組工法、2×4工法		
授 業 計 画	<p>第1回 建築構造のあらまし</p> <p>第2回 構造の種類と木構造</p> <p>第3回 地業・縄張、遣方・建方</p> <p>第4回 継手と仕口</p> <p>第5回 基礎土台</p> <p>第6回 真壁と大壁</p> <p>第7回 柱・間柱・同差</p> <p>第8回 筋かい・貫</p> <p>第9回 桁と梁（演習問題）</p> <p>第10回 和小屋と洋小屋の特徴</p> <p>第11回 和小屋の構造</p> <p>第12回 洋小屋の構造</p> <p>第13回 束建て床</p> <p>第14回 束を立てない床</p> <p>第15回 外部仕上げ</p> <p>第16回 屋根</p> <p>第17回 外壁と内部仕上げ</p> <p>第18回 木造枠組壁工法</p> <p>第19回 木造枠組工法における接合と補強</p> <p>第20回 期末試験</p>		
教科書、教材等	『図解 建築の構造と構法』井上書院		
授業の形式	教科書、プリント等によって授業を進める。		
成績評価の方法	期末試験及びレポート等で評価する。		
履修の留意点	基礎製図Ⅰ・Ⅱ、建築概論等の関連教科との結びついた学習とする。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8009
科 目 名	建築材料	科目種別	専門（必取得） * 2
科目名：英語	Building materials	所 属	建築設備科
担当教員名	三浦 和洋		
開講学期／単位数	I 期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	建物の骨組みを構成している主な材料は、木材、コンクリート、鋼材など多数ある。材料が本来持っている特性を理解し、使用方法を学ぶと共に、設備工事の施工上の留意点を知り、設計・施工の課題解決法を理解することができる。		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築材料とは 概論、変遷、分類 ・ 木材 種類と用途、構造と組織、乾燥、物理的性質、木材の一般性質、木材製品 ・ コンクリート セメント、骨材、混和剤、調合強度、調合設計、コンクリート強度、試験、コンクリート品 ・ 鋼材 鋼の性質、建築構造用鋼材、形鋼 		
キ ー ワ ー ド	木材、コンクリート、鋼材、調合設計		
授 業 計 画	第 1 回 建築材料とは（概論） 第 2 回 建築材料とは（変遷、分類） 第 3 回 木材（種類と用途 1） 第 4 回 木材（種類と用途 2） 第 5 回 木材（構造と組織、乾燥） 第 6 回 木材（物理的性質） 第 7 回 木材（一般性質、製品） 第 8 回 木材（演習） 第 9 回 コンクリート（セメント） 第 10 回 コンクリート（骨材、混和剤） 第 11 回 コンクリート（調合強度） 第 12 回 コンクリート（調合設計） 第 13 回 コンクリート（調合設計演習） 第 14 回 コンクリート（強度、試験、製品） 第 15 回 鋼材（鋼の性質 1） 第 16 回 鋼材（鋼の性質 1） 第 17 回 鋼材（建築構造用鋼材） 第 18 回 鋼材（形鋼 1） 第 19 回 鋼材（形鋼 2） 第 20 回 期末試験		
教科書、教材等	自作プリント等		
授業の形式	自作プリント等により進める。		
成績評価の方法	期末試験及びレポート等で評価する。		
履修の留意点	設計、施工につながる科目である。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8010
科 目 名	建築設備	科目種別	専門（必取得） * 2
科目名：英語	Building facilities	所 属	建築設備科
担 当 教 員 名	高橋 哲子／角田 映子		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上水道のしくみを理解することができる。 ・ 下水道のしくみを理解することができる。 ・ 給水方式を理解することができる。 ・ 流量線図を理解することができる。 ・ 排水方式やトラップを理解することができる。 ・ 浄化槽の構造を理解することができる。 		
授 業 の 概 要	2級管工事施工管理技士の求められる知識のうち、給排水衛生設備について学ぶ。		
キ ー ワ ー ド	水道施設 下水道の種類 給水方式 流量線図 排水方式 トラップ		
授 業 計 画	第1回 授業の概要 第2～5回 上水道 第6～8回 下水道 第9～11回 給水設備 第12～14回 給湯設備 第15～17回 排水・通気設備 第18～19回 浄化槽設備 第20回 期末試験		
教科書、教材等	『管工事施工管理技術テキスト 技術編』（財）地域開発研究所		
授 業 の 形 式	教科書、プリント等によって授業を進める。		
成績評価の方法	定期試験及び授業への積極性を評価する。		
履 修 の 留 意 点	関連科目の「建築設備及び材料」に結びついた学習とする。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8011
科 目 名	仕様及び積算	科目種別	専門（必取得） * 2
科目名：英語	Specifications & estimate	所 属	建築設備科
担当教員名	角田 映子		
開講学期／単位数	IV期／2単位（20回）		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 一般的な設備工事の流れを理解することができる。 簡単な設備工事の施工計画ならびに積算を理解することができる。 		
授業の概要	<p>建設産業における工事の大小にかかわらず工事の積算が必要となってくる。この積算には仕様書の理解が必要であり、これが出来るということは工事全般を理解することである。よって、そのためには安全をはじめ法規、工程、材料、人件費、管理など他科目での知識が基礎となってくる。</p> <p>ここでは、それらを理解した上で公共建築工事積算基準、公共建築数量積算基準に沿って、事例を交えながら施工計画や積算の演習を行い、応用力を身に付けることを行う。</p>		
キ ー ワ ー ド	工程、人件費、材料費、施工計画		
授 業 計 画	<p>第1回 配管工事の概要について</p> <p>第2回 工事の実施の注意点</p> <p>第3回 施工計画書の内容</p> <p>第4回 現場組織、緊急時の体制</p> <p>第5回 施工方法</p> <p>第6回 環境対策、再生資源の利用</p> <p>第7回 交通管理、現場環境の整備</p> <p>第8回 公共建築工事の仕様について</p> <p>第9回 公共建築工事積算基準の概要</p> <p>第10回 公共建築数量積算基準</p> <p>第11回 直接工事費</p> <p>第12回 共通費</p> <p>第13～14回 事例の紹介</p> <p>第15～16回 課題の解説</p> <p>第17～20回 演習及び期末試験</p>		
教科書、教材等	自作プリント		
授 業 の 形 式	プリントにそって授業を進める。		
成績評価の方法	レポート及び期末試験等で評価する。		
履 修 の 留 意 点	工程の検討も含み実務を見据えた演習を行う。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8012
科 目 名	生産工学	科目種別	専門 * 2
科目名：英語	Production engineering	所 属	建築設備科
担当教員名	長門 三喜男		
開講学期／単位数	IV期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	現場で使う建築専門用語を理解することができる。		
授 業 の 概 要	<p>多くの工業製品が大量生産を前提とするのに対し、建設は一品生産を原則とし、他の産業と比べて特殊な点が多い。</p> <p>この講義では、建築生産の特徴や技術動向を「建設業法」と関連付けて学習する。</p> <p>また、2級建築施工管理技士試験に関する、建築生産分野についても触れ、建築施工の意義を企画、設計、施工の順に学び、その特徴を学習する。</p> <p>続いて契約や管理を「建設業法」と関連付けながら学ぶ。特に、請負契約や入札による施工者の選定等を具体的に学習する。</p>		
キ ー ワ ー ド	2級建築施工管理技士、現場管理		
授 業 計 画	<p>第1回 建築生産のあらまし</p> <p>第2回 建築生産と建築施工</p> <p>第3回 建築主と企画</p> <p>第4回 設計図書</p> <p>第5回 設計者と工事管理者</p> <p>第6回 施工者</p> <p>第7回 建設業法の目的について</p> <p>第8回 建設業法の内容について</p> <p>第9回 請負契約</p> <p>第10回 随意契約</p> <p>第11回 工事の実施方式</p> <p>第12回 入札と施工者の選定</p> <p>第13回 工事契約</p> <p>第14回 工事計画と管理</p> <p>第15回 財務管理</p> <p>第16回 労務資材管理</p> <p>第17回 工事現場の管理（工事現場での AI・IoT 技術）</p> <p>第18回 安全管理</p> <p>第19回 衛生管理</p> <p>第20回 期末試験</p>		
教科書、教材等	『改訂版 基礎から学ぶ建築生産』学芸出版		
授 業 の 形 式	プリントを基に上記の法令集を引きながら授業を進めたい。		
成績評価の方法	レポート及び期末試験等で評価する。		
履 修 の 留 意 点	「関係法規」および建築設備関連教科と関連させて、授業を展開する。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8013
科 目 名	安全衛生工学	科目種別	専門（必取得） * 2
科目名：英語	Safety& hygiene engineering	所 属	建築設備科
担当教員名	角田 映子		
開講学期／単位数	I 期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	建設施工の労働安全衛生に関する法規の基礎的・基本的な内容を学ぶとともに、災害発生のメカニズムや作業環境の安全衛生管理等について理解することができる。		
授業の概要	建設業においては、工事の安全が何よりも重要であり、最優先されなければならない。そのことを念頭に置き授業を進める。また、土木・建築・管工事施工管理技術試験についても対応する。		
キ ー ワ ー ド	労働基準法、労働安全衛生法、公衆衛生関係法		
授 業 計 画	第 1 回 授業の内容紹介 第 2～5 回 労働基準法 第 6～11 回 労働安全衛生法 第 12～14 回 労働災害の現状、労働災害の指標 第 15～19 回 安全管理体制、リスクアセスメント、ヒューマンエラー 第 20 回 期末試験		
教科書、教材等	『管工事施工管理技術テキスト 技術編』（財）地域開発研究所		
授業の形式	教科書、プリント等によって授業を進める。		
成績評価の方法	期末試験及びレポート等で評価する。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8014
科 目 名	関係法規	科目種別	専門（必取得） * 2
科目名：英語	Related laws and regulations	所 属	建築設備科
担当教員名	長門 三喜男		
開講学期／単位数	Ⅲ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	二級建築士， 2 級建築施工管理技士に出題される初歩的な条文を理解することができる。		
授 業 の 概 要	<p>管工事関係法規は、建築基準法、建設業法、消防法、高圧ガス保安法、水道法等に深く関連している。</p> <p>これら主要な関係法規について、その目的、設備との関連事項の基礎知識を学び、諸届等課題解決のための基礎となる科目として位置づけている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築基準法…総則、集団規程、単体規程、確認申請書 ・ 建設業法…建設業の許可等、請負契約、施工技術の確保 ・ 消防法…消火設備、 ・ 高圧ガス法…液化石油ガス ・ 水道法…建築物に設ける配管設備の設置及び構造 		
キ ー ワ ー ド	二級建築士試験， 2 級建築施工管理技士		
授 業 計 画	<p>第 1 回 建築基準法（総則、用語の定義 1）</p> <p>第 2 回 建築基準法（用語の定義 2）</p> <p>第 3 回 建築基準法（集団規程 1）</p> <p>第 4 回 建築基準法（集団規程 2）</p> <p>第 5 回 建築基準法（集団規程 3）</p> <p>第 6 回 建築基準法（単体規程 1）</p> <p>第 7 回 建築基準法（単体規程 2）</p> <p>第 8 回 建築基準法（単体規程 3）</p> <p>第 9 回 演習</p> <p>第 10 回 建設業法（建設業の許可等、請負契約）</p> <p>第 11 回 建設業法（施工技術者の確保）</p> <p>第 12 回 消防法（消火設備 1）</p> <p>第 13 回 消防法（消火設備 2）</p> <p>第 14 回 高圧ガス（液化石油ガス 1）</p> <p>第 15 回 高圧ガス（液化石油ガス 2）</p> <p>第 16 回 水道法（建築物に設ける配管設備の設置及び構造 1）</p> <p>第 17 回 水道法（建築物に設ける配管設備の設置及び構造 1）</p> <p>第 18 回 演習</p> <p>第 19 回 演習</p> <p>第 20 回 期末試験</p>		
教科書、教材等	『基本建築関係法令集』井上書院、『図説 やさしい建築法規』学芸出版		
授 業 の 形 式	教科書、プリント等によって授業を進める。		
成績評価の方法	期末試験及びレポート等で評価する。		
履 修 の 留 意 点	諸届、申請につながる科目である。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8015
科 目 名	空気調和基礎	科目種別	専門 * 2
科目名：英語	Elementary knowledge of air conditioning	所 属	建築設備科
担当教員名	内田 直史		
開講学期／単位数	Ⅲ期／2 単位 (20 回)		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空気調和技術に不可欠な基本ツールである空気線図の使い方について理解することができる。 ・ 空調負荷計算の基礎的知識を理解することができる。 		
授業の概要	2 級管工事施工管理技士の求められる知識のうち、空気調和の設計基礎、機器の動作について学ぶ。		
キ ー ワ ー ド	空気調和設備、空調設計、空気線図、モリエル線図、冷凍サイクル		
授 業 計 画	第 1 回 空気調和設備について 第 2～3 回 設計条件 第 4～9 回 冷房負荷計算 第 10～13 回 暖房負荷計算 第 14～15 回 空調計画 第 16～19 回 暖房設備 第 20 回 期末試験		
教科書、教材等	『管工事施工管理技術テキスト 技術編』（財）地域開発研究所		
授業の形式	教科書、プリント等によって授業を進める。		
成績評価の方法	演習課題及び期末試験等で評価する。		
履修の留意点	空調設計には空気線図とモリエル線図の理解が必要である。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8016
科 目 名	機械工学概論	科目種別	専門
科目名：英語	Introduction to mechanical engineering	所 属	建築設備科
担当教員名	内田 直史／三浦 和洋／古川 大史		
開講学期／単位数	Ⅲ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	建築設備施工に不可欠なガス溶接、アーク溶接について理解することができる。		
授業の概要	ガス溶接技能講習及びアーク溶接特別教育の内容について学ぶ。		
キ ー ワ ー ド	ガス溶接、技能講習、アーク溶接、特別教育		
授 業 計 画	<p>アーク溶接</p> <p>第 1 回 アーク溶接等に関する知識</p> <p>第 2～3 回 アーク溶接装置に関する知識</p> <p>第 4～7 回 アーク溶接作業に関する知識</p> <p>第 8 回 関係法令</p> <p>ガス溶接</p> <p>第 9 回 ガスの種類、ガスの性状</p> <p>第 10 回 燃焼と爆発</p> <p>第 11～13 回 可燃性ガス、酸素</p> <p>第 14～17 回 設備の構造及び取り扱いの方法</p> <p>第 18～19 回 関係法令</p> <p>第 20 回 期末試験（技能講習学科試験を兼ねる）</p>		
教科書、教材等	『ガス溶接・溶断作業の安全』『アーク溶接等作業の安全』中央労働災害防止協会		
授業の形式	教科書、プリント等によって授業を進める。		
成績評価の方法	演習課題及び修了試験等で評価する。		
履修の留意点	「ガス溶接技能講習」は岩手労働局長登録機関である。		
参考・推薦図書等	『溶接〔Ⅰ〕』－厚生労働省認定－（財）職業訓練教材研究会		

年 度	2025	科目番号	8017
科 目 名	電気工学概論 I	科目種別	専門 (必取得)
科目名 : 英語	Introduction to electrical Engineering I	所 属	建築設備科
担 当 教 員 名	古川 大史		
開講学期/単位数	I 期/2 単位 (20 回)		
授業の到達目標	電気の基礎的な理論及び低圧電気設備の基礎知識について理解することができる		
授 業 の 概 要	国家試験である、第二種電気工事士の学科試験対策を実施することにより、電気設備の基礎的知識を習得する。		
キ ー ワ ー ド	第二種電気工事士		
授 業 計 画	第 1 回 概要、資格の説明 第 2～4 回 配線図記号 第 5～7 回 器具・材料と工具 第 8～10 回 配線設計と電気工事 第 11～13 回 検査方法 第 14～16 回 法令 第 17～20 回 電灯配線と複線図		
教科書、教材等	ぜんぶ絵で見て覚える第2種電気工事士筆記試験すい〜っと合格 (ツールボックス社)		
授 業 の 形 式	教科書に沿って進める。		
成績評価の方法	問題演習、期末試験及び授業への積極性を総合して評価する。		
履 修 の 留 意 点			
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8018
科 目 名	電気工学概論Ⅱ	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Introduction to electrical Engineering II	所 属	建築設備科
担当教員名	古川 大史		
開講学期／単位数	Ⅱ期／1単位（10回）		
授業の到達目標	電気の基礎的な理論及び低圧電気設備の基礎知識について理解することができる。		
授業の概要	国家試験である、第二種電気工事士の学科試験対策を実施することにより、電気設備の基礎的知識を習得する。		
キ ー ワ ー ド	第二種電気工事士		
授 業 計 画	第 1～3 回 電気の基礎理論 第 4～8 回 過去問演習 第 9 回 期末試験 第 10 回 試験解答解説		
教科書、教材等	ぜんぶ絵で見て覚える第2種電気工事士筆記試験すい〜っと合格 （ツールボックス社）		
授業の形式	教科書に沿って進める。		
成績評価の方法	問題演習、期末試験及び授業への積極性を総合して評価する。		
履修の留意点	電気工学概論Ⅰの履修とセット受講		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8019
科 目 名	土木工学概論 I	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Introduction to civil engineering	所 属	建築設備科
担当教員名	長門 三喜男／古川 大史		
開講学期／単位数	Ⅱ期／1単位（10回）		
授業の到達目標	給排水配管等の埋設のための敷地、道路構造の基礎を学び、施工に関連した知識を習得し、新規工事、補修工事の課題解決法を理解することができる。		
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土木一般 土工、コンクリート工、基礎工 		
キ ー ワ ー ド	土工、基礎工、道路・舗装、上下水道		
授 業 計 画	<p><土木一般></p> <p>第1回 概要</p> <p>第2回 土工（土質調査・土工機械）</p> <p>第3回 土工（土量計算・土工事と締固め管理）</p> <p>第4回 土工（軟弱地盤改良工事・法面保護工）</p> <p>第5回 コンクリート工（コンクリート材料・配合）</p> <p>第6回 コンクリート工（運搬・打込み・締固め等、鉄筋工）</p> <p>第7回 基礎工（直接基礎・既製杭基礎）</p> <p>第8回 基礎工（場所打ち杭基礎・土留め工）</p> <p>第9回 まとめ</p> <p>第10回 期末試験</p>		
教科書、教材等	『要点テキスト 2級土木施工管理技士』市ヶ谷出版		
授 業 の 形 式	教科書、プリント等によって授業を進める。		
成績評価の方法	期末試験及びレポート等で評価する。		
履 修 の 留 意 点			
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8020
科 目 名	土木工学概論Ⅱ	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Introduction to civil engineering	所 属	建築設備科
担当教員名	長門 三喜男／古川 大史		
開講学期／単位数	Ⅲ期／1単位（10回）		
授業の到達目標	給排水配管等の埋設のための敷地、道路構造の基礎を学び、施工に関連した知識を習得し、新規工事、補修工事の課題解決法を理解することができる。		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門土木 鋼・コンクリート構造物、河川・砂防、道路・舗装、ダム・トンネル、 海岸・港湾、鉄道、地下構造物、上下水道 		
キ ー ワ ー ド	土工、基礎工、道路・舗装、上下水道		
授 業 計 画	<p><専門土木></p> <p>第1回 鋼・コンクリート構造物（鋼材の性質・鋼材の接合）</p> <p>第2回 鋼・コンクリート構造物（橋梁の架設・鉄筋コンクリート構造物）</p> <p>第3回 河川・砂防（堤防と護岸・砂防えん堤・流路工・地すべり防止工）</p> <p>第4回 道路・舗装（路体・路床・路盤・表層・基層・コンクリート舗装・舗装の維持）</p> <p>第5回 ダム・トンネル（コンクリートダム・RCD工法・フィルダム・山岳トンネル・支保工・覆工）</p> <p>第6回 湾岸・港湾（海岸堤防・突堤・離岸堤・防波堤・係留施設・浚渫工）</p> <p>第7回 鉄道（土工・路盤工・営業線近接工事と線路閉鎖工事）</p> <p>第8回 地下構造物（開削工法・シールド工法）</p> <p>第9回 上下水道（上水道・下水道・推進工法）</p> <p>第10回 期末試験</p>		
教科書、教材等	『要点テキスト2級土木施工管理技士』市ヶ谷出版		
授業の形式	教科書、プリント等によって授業を進める。		
成績評価の方法	期末試験及びレポート等で評価する。		
履修の留意点	土木工学概論Ⅰとセット受講		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8021
科 目 名	測量学基礎	科目種別	専門（必取得） * 2
科目名：英語	Elementary knowledge of surveying	所 属	建築設備科
担当教員名	長門 三喜男／三浦 和洋		
開講学期／単位数	I 期／1 単位（10 回）		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築施工に必要な測量方法の基礎知識を理解することができる。 ・ 基礎測量実習と併せ、各種測量機器の取り扱い手順を理解することができる。 ・ 測定結果について、誤差の補正方法を理解することができる。 		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 測量一般（概論、二次元測量、三次元測量） ・ 距離測量 用具、方法 ・ 平板測量 用具、方法、誤差、製図方法 ・ 水準測量 用具、方法、野帳整理方法 ・ トランシット測量 用具、方法、野帳方法 		
キ ー ワ ー ド	測量機器の扱い方，誤差の補正		
授 業 計 画	第 1 回 測量一般（概論、二次元測量、三次元測量） 第 2 回 距離測量（用具、測量方法） 第 3 回 平板測量（用具、測量方法） 第 4 回 平板測量（方法、誤差の求め方） 第 5 回 平板測量（作図方法及び面積計算） 第 6 回 水準測量（用具、据付、読み） 第 7 回 水準測量（測量方法、野帳整理方法） 第 8 回 トランシット測量（用具、据付） 第 9 回 トランシット測量（測量方法、野帳整理） 第 10 回 期末試験		
教科書、教材等	自作プリント		
授業の形式	プリント等によって授業を進める。		
成績評価の方法	期末試験及びレポート等で評価する。		
履修の留意点	現場施工につながる科目である。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8022
科 目 名	建築計画Ⅱ	科目種別	専門 * 2
科目名：英語	Building planⅡ	所 属	建築設備科
担当教員名	長門 三喜男		
開講学期／単位数	Ⅲ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 居住系建築物として、集合住宅及び団地計画についての基礎知識を理解することが出来る。 ・ 商業施設等大規模建築物の計画について、その基礎知識を理解することができる。（事務所ビル、高齢者施設等、駐車施設等の計画） 		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集合住宅及び団地の計画 概要、分類、配置計画、住戸の計画、共同施設、団地の計画手法 ・ 事務所ビルの計画 概要、コアによる分類、平面計画、モジュール、設備計画（断熱、給排水、冷暖房、搬送等） ・ 高齢者施設等の計画 高齢者福祉施設の種類、平面計画、関係法令（バリアフリー法等） ・ 駐車施設等 駐車スペース、駐車場の種類、駐輪場 		
キ ー ワ ー ド	集合住宅、コア、レントابل比、ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン		
授 業 計 画	第1回 授業内容の紹介 第2回 集合住宅の計画（概要） 第3回 集合住宅の計画（分類） 第4回 集合住宅の計画（配置計画） 第5回 集合住宅の計画（住戸の計画） 第6回 団地の計画手法1 第7回 団地の計画手法2 第8回 事務所計画（概要） 第9回 事務所計画（コアによる分類） 第10回 事務所計画（平面計画1） 第11回 事務所計画（平面計画2） 第12回 事務所計画（設備計画1） 第13回 事務所計画（設備計画2） 第14回 高齢者施設等の計画（分類） 第15回 高齢者施設等の計画（分類） 第16回 高齢者施設等の計画（分類） 第17回 高齢者施設等の計画（分類） 第18回 駐車施設等の計画1 第19回 駐車施設等の計画2 第20回 期末試験		
教科書、教材等	『やさしい建築計画』学芸出版		
授業の形式	教科書、プリント等によって授業を進める。		
成績評価の方法	期末試験及びレポート等で評価する。		
履修の留意点	建築基礎製図及び建築設備設計製図につながる科目である。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8023
科 目 名	建築構造Ⅱ	科目種別	専門 * 2
科目名：英語	Building structureⅡ	所 属	建築設備科
担当教員名	三浦 和洋		
開講学期／単位数	Ⅲ期／2 単位 (20 回)		
授業の到達目標	<p>既に学習した木構造を基に、近代の工業技術によって生み出された鉄骨造及び鉄筋コンクリート造について理解することができる。</p> <p>鉄骨造と鉄筋コンクリートの利点・欠点を対照させ、各々の工法の持つ特質を学習し、鉄骨鉄筋コンクリート等の他の工法について理解することができる。</p> <p>鉄筋コンクリート造 (RC 造) , 鉄骨造 (S 造) の基礎的な知識を理解することができる。</p>		
授業の概要	<p>木構造を基本に鉄骨造と鉄筋コンクリートが近代に多用されるに至った理由から、2つの工法の特徴を探る。部材名や工法を理解させるため、單元ごとに小テストを実地する。</p> <p>また構造や細部の納まりについては「建築基礎製図」等の製図資料を参照して、学習を深める。</p>		
キ ー ワ ー ド	RC 造、S 造		
授 業 計 画	<p>第 1 回 鉄骨造のあらまし</p> <p>第 2 回 トラスとラーメン</p> <p>第 3 回 鋼材</p> <p>第 4 回 高力ボルトと溶接</p> <p>第 5 回 骨組みの構成と部材</p> <p>第 6 回 梁と柱および筋かい・耐震壁等</p> <p>第 7 回 小屋組</p> <p>第 8 回 柱脚と床組</p> <p>第 9 回 外部・内部の仕上げ</p> <p>第 10 回 軽鋼構造と鋼管構造について</p> <p>第 11 回 鉄筋コンクリートのあらまし</p> <p>第 12 回 鉄筋とセメント・コンクリート</p> <p>第 13 回 地盤と基礎</p> <p>第 14 回 配筋の要点</p> <p>第 15 回 梁と柱・壁とスラブ</p> <p>第 16 回 外部・内部の仕上げ</p> <p>第 17 回 防水工事</p> <p>第 18 回 鉄骨鉄筋コンクリート</p> <p>第 19 回 プレストレストコンクリート構造</p> <p>第 20 回 期末試験</p>		
教科書、教材等	『図解 建築の構造と構法』井上書院		
授業の形式	教科書、プリント等によって授業を進める。		
成績評価の方法	期末試験及びレポート等で評価する。		
履修の留意点	「建築構造Ⅰ」および「建築基礎製図」等と関連付けて指導する。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8024
科 目 名	建築設備及び材料 I	科目種別	専門 * 2
科目名：英語	Building facilities & materials I	所 属	建築設備科
担 当 教 員 名	高橋 哲子／古川 大史／角田 映子		
開講学期／単位数	I 期／2 単位 (20 回)		
授 業 の 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 液化石油ガス設備機器、空気調和設備機器、給排水配管および配管材料の適当な選択を理解することができる。 ・ アイソメ図を理解することができる。 ・ 配管の単線図を理解することができる。 		
授 業 の 概 要	2 級管工事施工管理技士の求められる知識のうち、主にガス配管および給排水衛生設備に関する知識を中心に学ぶ。		
キ ー ワ ー ド	アイソメ図、配管用炭素鋼鋼管、排水用鉄管、硬質塩化ビニル管、配管用銅管、単線図		
授 業 計 画	第 1～8 回 液化石油ガス設備 第 9～16 回 給排水衛生設備 第 17～19 回 ボイラー 第 20 回 期末試験		
教科書、教材等	『管工事施工管理技術テキスト』（財）地域開発研究所		
授 業 の 形 式	教科書とプリントを参考にして授業を進める。		
成績評価の方法	レポート及び期末試験等で評価する。		
履 修 の 留 意 点			
参 考 ・ 推 薦 図 書 等			

年 度	2025	科目番号	8025
科 目 名	建築設備及び材料Ⅱ	科目種別	専門 * 2
科目名：英語	Building facilities & materialsⅡ	所 属	建築設備科
担 当 教 員 名	高橋 哲子／古川 大史／角田 映子		
開講学期／単位数	Ⅳ期／2 単位（20 回）		
授 業 の 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空気調和設備機器、給排水衛生設備の機器について適当な選択を理解することができる。 ・ アイソメ図を理解することができる。 ・ 配管の単線図を理解することができる。 		
授 業 の 概 要	2 級管工事施工管理技士の求められる知識のうち、主に空気調和設備機器及び給排水衛生設備の機器に関する知識を中心にして学ぶ。		
キ ー ワ ー ド	アイソメ図、配管用炭素鋼鋼管、排水用鉄管、硬質塩化ビニル管、配管用銅管、単線図		
授 業 計 画	第 1～3 回 冷凍機 第 4～7 回 空気調和機 第 8～11 回 送風機、ポンプ 第 12～19 回 配管材、弁、ダクト、保温材、塗装 第 20 回 期末試験		
教科書、教材等	『管工事施工管理技術テキスト』（財）地域開発研究所		
授 業 の 形 式	教科書とプリントを参考にして授業を進める。		
成績評価の方法	レポート及び期末試験等で評価する。		
履 修 の 留 意 点	建築設備及び材料Ⅰとセット受講		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8026
科 目 名	制御工学	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Control engineering	所 属	建築設備科
担当教員名	内田 直史／古川 大史		
開講学期／単位数	Ⅲ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機器の制御の方法や仕組みなどの基礎的な知識を理解することができる。 ・ シーケンス制御の構成と働きを理解することができる。 ・ 制御回路の動作の流れを理解することができる。 ・ 制御回路図の読み方／描き方を理解することができる。 		
授業の概要	<p>建築設備機器制御の基本である、リレーシーケンス制御を中心に説明する。 シーケンス制御にはスイッチやリレーなど多くの接点が使われているが、それらは自動制御において重要な要素である。そこで、それらの動作や働き、制御用機器の構造や使い方、図記号なども説明する。 また、基本回路の自己保持回路、インタロック回路をはじめ、モータを制御する回路、PLC 等について説明をする。</p>		
キ ー ワ ー ド	リレー、シーケンス制御、自己保持回路、インタロック回路、PLC（プログラマブルコントローラ）		
授 業 計 画	第 1 回 電気の基礎知識 第 2 回 シーケンス制御 第 3 回 制御に用いられる危機のいろいろ 第 4 回 電気用図記号、シーケンス制御記号 第 5 回 シーケンス回路図 第 6 回 ON/OFF 信号(押しボタンスイッチ) 第 7 回 ON/OFF 信号(電磁リレー) 第 8 回 論理回路 第 9 回 禁止回路、自己保持回路 第 10 回 インタロック回路、排他的 OR 回路 第 11 回 一致回路、順次始動回路、優先回路 第 12 回 タイマ回路、遅延・一定時間動作回路 第 13 回 実用回路例 1 第 14 回 実用回路例 2 第 15 回 PLC 制御 第 16 回 演習 第 17 回 演習 第 18 回 演習 第 19 回 定期試験 第 20 回 試験解説とまとめ		
教科書、教材等	教科書：『やさしいリレーとシーケンサ』オーム社		
授業の形式	教科書に従って授業をすすめ、演習を行う。		
成績評価の方法	定期試験及び授業への積極性を総合して評価する。		
履修の留意点	制御工学実験と関連して学習すること。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8027
科 目 名	建築設備施工 I	科目種別	専門 * 2
科目名：英語	Excution of building facilities I	所 属	建築設備科
担 当 教 員 名	内田 直史／高橋 哲子／三浦 和洋／角田 映子		
開講学期／単位数	I 期／1 単位 (10 回)		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 液化石油ガス設備の設置基準について理解することができる。 		
授業の概要	液化石油ガス設備の施工における配管材料等を図面などから読み取る方法を学ぶ。		
キ ー ワ ー ド	液化石油ガス		
授 業 計 画	第 1～4 回 液化石油ガス設備の設備図面の見方 第 5～9 回 問題演習 第 10 回 期末試験		
教科書、教材等	自作プリント		
授 業 の 形 式	プリント等によって授業を進める		
成績評価の方法	期末試験及び課題等で評価する。		
履 修 の 留 意 点			
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8028
科 目 名	建築設備施工Ⅱ	科目種別	専門 * 2
科目名：英語	Excution of building facilitiesⅡ	所 属	建築設備科
担当教員名	内田 直史／高橋 哲子／三浦 和洋／角田 映子		
開講学期／単位数	Ⅱ期／3単位（30回）		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給排水衛生設備及び液化石油ガス設備の配管図記号を理解することができる。 ・ 配管立面図を書くことができる。 ・ 配管材料、継ぎ手類を理解することができる。 ・ 配管の長さや継ぎ手の数を求めることができる。 		
授業の概要	給排水衛生設備の施工における配管材料等を図面などから読み取り、積算方法等について学ぶ。		
キ ー ワ ー ド	給排水、衛生設備、配管、管接手、配管図面、積算		
授 業 計 画	第1～3回 配管図示記号、材料・継手記号 第4～8回 給排水衛生設備の設備図面の見方 第9～13回 立面図の見方・描き方 第14～16回 管長寸法の出し方 第17～19回 継手数量の出し方 第20～29回 問題演習 第30回 期末試験		
教科書、教材等	自作プリント		
授業の形式	プリント等によって授業を進める		
成績評価の方法	期末試験及び課題等で評価する。		
履修の留意点	建築設備施工Ⅰとセット受講		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8029
科 目 名	熱力学及び流体力学	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Thermodynamics & Hydromechanics	所 属	建築設備科
担当教員名	内田 直史		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熱エネルギーや流体の流れの諸定理について理解することができる。 ・ 温度、湿度などの条件により空気線図から、空気の状態を把握できる。 ・ 冷凍サイクルの概要を説明することができる。 		
授業の概要	熱とエネルギーを扱う「熱力学」の基本法則および流体の流れの基礎理論、ならびにそれらを通じた管路の物理現象について学ぶ。		
キ ー ワ ー ド	ボイル・シャルルの法則、伝熱、顕熱、潜熱、空気線図、モリエル線図、冷凍サイクル、ベルヌーイの定理		
授 業 計 画	第1回 熱及びSI単位について 第2回 気体の法則 第3回 熱のエネルギー 第4～5回 伝熱及び冷凍 第6～7回 空気 第8～9回 空気線図 第10～11回 流体の性質 第12～13回 流体の静力学 第14～15回 流体の運動力学 第16～17回 流体の運動 第18～19回 管路の流れ 第20回 期末試験		
教科書、教材等	『管工事施工管理技術テキスト 技術編』（財）地域開発研究所		
授業の形式	教科書に沿って進める。		
成績評価の方法	演習課題及び期末試験等で評価する。		
履修の留意点	関連科目の「基礎工学実験」に結びついた学習とする。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8030
科 目 名	液化石油ガス設備	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Liquefied petroleum gas equipments	所 属	建築設備科
担当教員名	高橋 哲子／古川 大史／角田 映子		
開講学期／単位数	I 期／4 単位（40 回）		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 液化石油ガス設備についての配管理論について理解することができる。 ・ 液化石油ガス設備士が行える作業について理解することができる。 ・ 液化石油ガス設備に関する機器や施工方法について理解することができる。 ・ 液化石油ガス設備士が行える作業について理解することができる。 ・ 液石法などの関係法規について理解することができる。 		
授業の概要	経済産業省から液化石油ガス設備士の養成施設として認定を受けていることから資格取得を目標とする。		
キ ー ワ ー ド	液化石油ガス設備士、プロパン、ブタン、機械式自記圧力計、アイソメ図、液化石油ガス設備士、プロパン、ブタン、機械式自記圧力計、関係法規		
授 業 計 画	第 1～3 回 LP ガスの基礎知識、燃焼理論 第 4～10 回 設備工事に必要な機器 第 11～18 回 配管材料及び施工方法 第 19～20 回 配管理論、配管設計 第 21～24 回 供給設備及び検査・点検・調査 第 25～29 回 燃焼器、給排気設備 第 30 回 特定ガス消費機器の設置工事 第 31～36 回 液石法など関係法規の概要について 第 37～40 回 関係法規（外部講師）		
教科書、教材等	『液化石油ガス設備施工マニュアル』高圧ガス保安協会 『液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法規集』高圧ガス保安協会		
授業の形式	教科書に沿った内容として進める。		
成績評価の方法	模擬試験及び本試験による。		
履修の留意点	学科合格により実技試験の受験が可となる。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8031
科 目 名	建築設備設計法	科目種別	専門 * 2
科目名：英語	Planning method of building facilities	所 属	建築設備科
担当教員名	高橋 哲子／古川 大史／角田 映子		
開講学期／単位数	Ⅲ期／2 単位 (20 回)		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消防関係法令を理解することができる。 ・ 機械、電気に関する基礎知識を身に付けている。 ・ 水系 (1 類) に関する消防設備の規格を理解することができる。 ・ 水系 (1 類) に関する消防設備の構造・機能を理解することができる。 ・ 水系 (1 類) に関する工事、整備、点検方法を理解することができる。 		
授業の概要	消防設備士甲種第 1 類の対象となっている屋内消火栓設備、スプリンクラー設備、水噴霧消火設備、屋外消火栓設備について学ぶ。		
キ ー ワ ー ド	消防設備、消防設備士、甲種、第 1 類、屋内消火栓設備、スプリンクラー設備、水噴霧消火設備、屋外消火栓設備		
授 業 計 画	第 1～3 回 電気に関する基礎知識 第 4～6 回 機械に関する基礎知識 第 7～10 回 屋内消火栓設備、屋外消火栓設備 第 11～14 回 スプリンクラー設備 第 15～17 回 水噴霧消火栓、パッケージ型消火設備 第 18～19 回 規格、面接 第 20 回 期末試験		
教科書、教材等	『消防用設備等基本テキスト』(財)日本消防設備安全センター 『消防用設備士受験対策例題集』(財)日本消防設備安全センター		
授業の形式	教科書に沿った内容として進め、適宜、問題演習を実施する。		
成績評価の方法	問題演習及び期末試験等で評価する。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8032
科 目 名	施工管理法 I	科目種別	専門
科目名：英語	Method of execution & Management I	所 属	建築設備科
担当教員名	三浦 和洋		
開講学期／単位数	Ⅲ期／3 単位 (30 回)		
授業の到達目標	2 級建築施工管理技士に必要な基礎的知識や考え方を理解することができる。		
授業の概要	2 級建築施工技術者試験（一次検定）合格に向け、受験対策を行う。		
キ ー ワ ー ド	2 級土木施工管理技士（一次検定）、2 級建築施工管理技士（一次検定）、2 級管工事施工管理技士（一次検定）		
授 業 計 画	第 1 回 オリエンテーション 第 2～4 回 建築学に関する問題説明 第 5 回 共通事項に関する問題説明 第 6～9 回 施工（躯体工事）に関する問題説明 第 10～13 回 施工（仕上げ工事）に関する問題説明 第 14～15 回 施工管理法に関する問題説明 第 16～17 回 法規に関する問題説明 第 18 回 中間試験 第 19 回 土木施工管理技士試験と建築施工管理技士試験の共通部分の説明 第 20 回 管工事施工管理技士試験と建築施工管理技士試験の共通部分の解説 第 21～29 回 2 級建築施工管理技士試験過去問演習 第 30 回 期末試験		
教科書、教材等	『要点テキスト 2 級土木施工管理技士』市ヶ谷出版 『やさしい建築施工』学芸出版 『管工事施工管理技術テキスト』（財）地域開発研究所		
授業の形式	テキストに沿って授業を進め、過去問題による模擬試験。		
成績評価の方法	模擬試験及び資格試験結果等で評価する。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8033
科 目 名	施工管理法Ⅱ	科目種別	専門
科目名：英語	Method of excution & ManagementⅡ	所 属	建築設備科
担当教員名	長門 三喜男／高橋 哲子／古川 大史／角田 映子		
開講学期／単位数	Ⅳ期／5単位（50回）		
授業の到達目標	施工管理技士に必要な基礎的知識を理解することができる。		
授業の概要	土木・管工事施工技術者試験合格に向け、受験対策を行う。		
キ ー ワ ー ド	2級土木施工管理技士（一次検定）、2級管工事施工管理技士（一次検定）		
授 業 計 画	<p><土木施工管理試験対策></p> <p>第1～3回 共通工学（測量・設計図書・建設機械） 第4～12回 土木法規（労働基準法・労働安全衛生法・建設業法・道路関係法・河川法・建築基準法・火薬類取締法・騒音振動規制法・港則法） 第13～19回 施行管理法（施工計画・建設機械・工程管理・安全管理・品質管理・環境保全対策） 第20回 期末試験</p> <p><管工事施工管理試験対策></p> <p>第21～24回 環境工学、給排水衛生設備、空調設備 第25～34回 関係法規（建築基準法・上水道法・下水道法・水質汚濁防止法・消防法） 第35～49回 施工管理法（機器据付・工事施工・施工計画・工程管理・安全管理・品質管理） 第50回 期末試験</p>		
教科書、教材等	『要点テキスト 2級土木施工管理技士』市ヶ谷出版 『管工事施工管理技術テキスト』（財）地域開発研究所		
授 業 の 形 式	テキストに沿って授業を進め、過去問題による模擬試験を行う。		
成績評価の方法	模擬試験及び資格試験結果等で評価する。		
履 修 の 留 意 点			
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8034
科 目 名	応用建築設備演習	科目種別	専門 * 2
科目名：英語	Applied building facilities practice	所 属	建築設備科
担当教員名	高橋 哲子／古川 大史／角田 映子		
開講学期／単位数	Ⅳ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	<p>消防設備士として必要な知識について、消防法を中心とした法令の理解をしながら、消防用設備等の構造、機能について学ぶ。 消防設備士（甲種 1 類）に出題される問題を理解できる。</p>		
授業の概要	<p>消防設備士の試験内容は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筆記試験・・・基礎的知識、構造・機能、規格、法令 ・ 実技試験・・・鑑別等 <p>多岐に及ぶが、全ては法令に基づく部分が多い。 よって、授業の内容は法令の理解を中心に行うものとする。 また、それらを理解する上において、全てを短期間に暗記するのは困難であるため、単元ごとにポイントを絞り、演習を行うことでさらに理解を深めることとする。 なお、実技試験については、ペーパーによる試験であるため、実習などの実技は行うことはない。</p>		
キ ー ワ ー ド	消防設備士（甲種 1 類）		
授 業 計 画	<p>第 1 回 組織・制度 第 2 回 法令用語 第 3 回 火災予防上の措置 第 4 回 立入り検査、措置命令 第 5 回 消防同意 第 6 回 防火管理制度 第 7 回 防災規制 第 8 回 市町村条例 第 9 回 危険物規制 第 10 回 消防用設備等の設置・維持 第 11 回 消防用設備等の検査、点検等 第 12 回 消防設備士制度 第 13 回 検定制度 第 14～15 回 防災管理制度 第 16～20 回 屋内・屋外消火栓設備</p>		
教科書、教材等	<p>『消防用設備等基本テキスト』（財）日本消防設備安全センター 『消防用設備士受験対策例題集』（財）日本消防設備安全センター</p>		
授業の形式	教科書とプリントを参考にして授業を進める。		
成績評価の方法	受講態度、演習等の結果で評価する。		
履修の留意点	法令、規則に関する理解力を養いながら進めていく。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8035
科 目 名	基礎工学実験 I	科目種別	専門（必取得） * 2
科目名：英語	Basic engineering experiment I	所 属	建築設備科
担当教員名	内田 直史／三浦 和洋／古川 大史		
開講学期／単位数	I 期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	実験を通して基本的な各種定理等を理解し、レポートにまとめることで、観察力や考察力を身に付ける。		
授業の概要	各種定理の実験を行うことによって、仮説を検証するプロセスを学ぶ。		
キ ー ワ ー ド	ノギス・マイクロメータ、密度、ジュール熱、ボイル・シャルルの法則、ガス圧接、重力加速度		
授 業 計 画	<p>グループに分かれ各実験を行い、そのことについて各自レポート作成を行う。</p> <p>第 1～20 回 ①計測・測定実験、②気体の法則実験、③電流の熱作用（ジュール熱）実験</p>		
教科書、教材等	自作プリントなど		
授業の形式	プリントを参考にして授業を進める。		
成績評価の方法	作業の取り組み姿勢、レポートの作成内容で評価する。		
履修の留意点	関連科目：物理学、環境工学、熱力学		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8036
科 目 名	基礎工学実験Ⅱ	科目種別	専門（必取得） * 2
科目名：英語	Basic engineering experimentⅡ	所 属	建築設備科
担当教員名	内田 直史／三浦 和洋／古川 大史		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	環境工学などで学んだ内容について再認識をし、実験を通して理解し、レポートにまとめることで、観察力や考察力を身に付ける。		
授業の概要	各種定理の実験を行うことによって、仮説を検証するプロセスを学ぶ。		
キ ー ワ ー ド	密度、電気抵抗、材料塑性		
授 業 計 画	グループに分かれ各実験を行い、そのことについて各自レポート作成を行う。 第 1～ 20 回 ①絶縁抵抗・接地抵抗測定実験、②鉄筋の引張試験		
教科書、教材等	自作プリントなど		
授 業 の 形 式	プリントを参考にして授業を進める。		
成績評価の方法	作業の取り組み姿勢、レポートの作成内容で評価する。		
履 修 の 留 意 点	関連科目：物理学、環境工学、熱力学		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8037
科 目 名	基礎製図 I	科目種別	専門 (必取得) * 2
科目名 : 英語	Basic drafting I	所 属	建築設備科
担当教員名	長門 三喜男 / 三浦 和洋 / 外部講師		
開講学期 / 単位数	I 期 / 2 単位 (20 回)		
授業の到達目標	製図の規則や技法、器具の使用法を基に、木造建築の模写を通して製図の基礎的技術を習得し、併せて様々な構造の特徴、部材名称や納まりを理解することができる。		
授業の概要	「建築構造 I」で学んだ木構造と関連性を持たせながら、基礎基本を重視した基礎的技術を習得する。木構造の各種図面の模写を中心に平面計画のあり方を始め、構造・工法の特徴や納まりを理解し、建築設計の手法を身につける。		
キ ー ワ ー ド	製図の技法、製図器具の使用法、配置図、平面図、立面図、矩計図		
授 業 計 画	第 1 回 オリエンテーションと道具の使い方 第 2～5 回 文字の練習・線の練習 第 6～9 回 木造 2 階建住宅 1、2 階平面図兼配置図 第 10～13 回 木造 2 階建住宅断面図・立面図 第 14～17 回 木造 2 階建住宅かなばかり図 第 18～20 回 木造 2 階建住宅各伏図・軸組図		
教科書、教材等	『建築製図基本の基本』学芸出版		
授業の形式	製作手順を明確にし課題図面の模写を行う		
成績評価の方法	製図作品と授業への積極的な取り組みを総合して評価する。		
履修の留意点	「建築構造 I」等との関連を重視して指導する。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8038
科 目 名	基礎製図Ⅱ	科目種別	専門（必取得） * 2
科目名：英語	Basic draftingⅡ	所 属	建築設備科
担当教員名	長門 三喜男／三浦 和洋／外部講師		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	製図の規則や技法、器具の使用法を基に、鉄筋コンクリート造、鉄骨造の模写を通して製図の基礎的技術を習得し、併せて様々な構造の特徴、部材名称や納まりを理解することができる。		
授業の概要	「建築構造Ⅱ」で学んだ鉄筋コンクリート造、鉄骨造の知識と関連性を持たせながら、基礎基本を重視した基礎的技術を習得する。木構造の各種図面の模写を中心に平面計画のあり方を始め、構造・工法の特徴や納まりを理解し、建築設計の手法を身につける。		
キ ー ワ ー ド	製図の技法、製図器具の使用方法、配置図、平面図、立面図、矩計図		
授 業 計 画	第 1～5 回 鉄筋コンクリート造店舗各階平面図兼配置図 第 6～9 回 鉄筋コンクリート造店舗断面図・立面図 第 10～13 回 鉄骨造工場平面図兼配置図 第 14～20 回 鉄骨造工場断面図・立面図・詳細図		
教科書、教材等	『建築製図基本の基本』学芸出版		
授業の形式	製作手順を明確にし課題図面の模写を行う		
成績評価の方法	製図作品と授業への積極的な取り組みを総合して評価する。		
履修の留意点	「建築構造Ⅰ・Ⅱ」等との関連を重視して指導する。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8039
科 目 名	情報工学実習 I	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Information engineering practice I	所 属	建築設備科
担 当 教 員 名	内田 直史／古川 大史		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なアプリケーションソフトである Word、Excel、PowerPoint の応用操作ができる。 		
授 業 の 概 要	情報工学Ⅱで習得した Word、Excel、PowerPoint の基本操作をもとに、応用的な機能について演習を通して習得する。		
キ ー ワ ー ド	Word、Excel、PowerPoint		
授 業 計 画	第 1～5 回 Word の課題演習 第 6 回 Word 演習課題のまとめ・講評 第 7～12 回 Excel の課題演習 第 13～18 回 PowerPoint の課題演習 第 19～20 回 PowerPoint 演習課題の発表・講評		
教科書、教材等	自作プリント		
授 業 の 形 式	パソコンを使い実習形式で進める。		
成績評価の方法	課題提出、プレゼンテーション、定期試験及び授業への積極性を評価する。		
履 修 の 留 意 点	コンピュータ操作が基本となるので、情報工学と関連づけて学習すること。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8040
科 目 名	情報工学実習Ⅱ	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Information engineering practiceⅡ	所 属	建築設備科
担 当 教 員 名	長門 三喜男／高橋 哲子／古川 大史		
開講学期／単位数	Ⅳ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く使用されている製図フリーソフトである JW-CAD の基本操作ができる。 ・ 住宅用 3DCAD ソフト「3D マイホームデザイナー」の基本操作ができる。 		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ JW-CAD の操作においては、基本操作から学習し、建築図面を作成できるレベルになるよう演習を行う。 ・ 「3D マイホームデザイナー」の操作においては、木造 2 階建て住宅の間取りや立体化等の基本操作の演習を行う。 		
キ ー ワ ー ド	JW-CAD、「3D マイホームデザイナー」		
授 業 計 画	第 1～10 回 「3D マイホームデザイナー」の基本操作、課題演習 第 11～20 回 「JW-CAD」の基本操作、課題演習		
教科書、教材等	自作プリント		
授 業 の 形 式	パソコンを使い実習形式で進める。		
成績評価の方法	課題提出、プレゼンテーション、定期試験及び授業への積極性を評価する。		
履 修 の 留 意 点	コンピュータ操作が基本となるので、情報工学と関連づけて学習すること。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8041
科 目 名	基礎測量実習	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Basic surveying practice	所 属	建築設備科
担当教員名	長門 三喜男／三浦 和洋		
開講学期／単位数	I期／1単位（10回）		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種測量機器の取り扱い手順を理解し、操作することができる。 ・測定結果について、誤差の補正処理を行うことができる。 		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 距離測量 巻尺測量による実測、レポート ・ 平板測量 平板測量による実測、レポート ・ 水準測量 オートレベルによる実測、レポート ・ トランシット測量 トータルステーションによる実測、レポート 		
キ ー ワ ー ド	測量機器の取り扱い，誤差の補正		
授 業 計 画	第1回 距離測量（実測、測定結果のまとめ） 第2回 平板測量（器具の扱い、実測） 第3回 平板測量（実測） 第4回 平板測量（製図、測定結果のまとめ） 第5回 水準測量（据付、測定演習） 第6回 水準測量（実測） 第7回 水準測量（測定結果のまとめ） 第8回 トランシット測量（据付、測定演習） 第9回 トランシット測量（実測） 第10回 トランシット測量（測定結果のまとめ）		
教科書、教材等	自作プリント		
授業の形式	プリント等によって授業を進める。		
成績評価の方法	作業理解、作業への取り組み姿勢及びレポート等で総合的に評価する。		
履修の留意点	現場施工につながる科目である。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8042
科 目 名	建築設備実験	科目種別	専門（必取得） * 2
科目名：英語	Building facilities experiment	所 属	建築設備科
担当教員名	内田 直史／長門 三喜男／高橋 哲子／三浦 和洋／古川 大史		
開講学期／単位数	Ⅲ期／4 単位（40 回）		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冷凍サイクル、空気線図を理解することができる。 ・ ベルヌーイの定理、レイノルズ数、管摩擦係数を理解することができる。 ・ 三相誘導電動機及び渦巻ポンプの効率、ポンプの全揚程を理解することができる。 ・ コンクリートの調合を理解することができる。 ・ コンクリートの強度測定を理解することができる。 		
授業の概要	<p>建築設備の中でも快適な室内環境を作り出す上で、空気調和と給排水に関する要望は年々高まってきており、温度、湿度及び水の流れについて理解しておくことが必要である。</p>		
キ ー ワ ー ド	<p>空気調和、空気線図、冷凍サイクル、チラー、管摩擦係数、ベルヌーイの定理、層流、乱流、レイノルズ数、三相誘導電動機、すべり、コンクリート、骨材、スランプ試験、圧縮試験</p>		
授 業 計 画	<p>グループに分かれ各実験を行い、各自レポート作成を行う。</p> <p>第 1～40 回 ①空気調和実験 ②管路の損失実験 ③ポンプの性能実験 ④コンクリートの調合設計、調合 ⑤コンクリートの圧縮実験</p>		
教科書、教材等	自作プリントなど		
授 業 の 形 式	プリントを参考にして授業を進める。		
成績評価の方法	作業の取り組み姿勢、レポートの作成内容で評価する。		
履 修 の 留 意 点	関連科目：熱力学及び流体力学、空気調和基礎		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8043
科 目 名	制御工学実験	科目種別	専門
科目名：英語	Control engineering experiment	所 属	建築設備科
担 当 教 員 名	内田 直史／古川 大史		
開講学期／単位数	Ⅲ期／4 単位（40 回）		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ メイク接点、ブレイク接点を理解することができる。 ・ AND 回路、OR 回路を理解することができる。 ・ 自己保持回路を理解することができる。 ・ インターロック回路を理解することができる。 ・ タイマー回路を理解することができる。 ・ 電磁接触器を用いた誘導電動機の直接起動を理解することができる。 ・ PLC のプログラミングを理解することができる。 		
授 業 の 概 要	<p>前半では設備機器の制御について、「問題 → 回路設計 → 配線 → 実行」の手順で、論理回路、基本回路、センサを利用した回路などを実装、動作確認をする。</p> <p>後半ではリレーやタイマーなどがひとつの機器に組み込まれた PLC を使い実装、プログラミング、動作確認をする。</p>		
キ ー ワ ー ド	メイク接点、ブレイク接点、AND 回路、OR 回路、自己保持回路、タイマー回路、電磁接触器、PLC、プログラミング		
授 業 計 画	<p>第 1 回 実験機器の説明</p> <p>第 2 回 図記号と文字記号、論理回路</p> <p>第 3～4 回 タイムチャートと真理値表</p> <p>第 5～6 回 リレーの基礎</p> <p>第 7～8 回 論理回路</p> <p>第 9～10 回 自己保持回路</p> <p>第 11～12 回 インターロック回路</p> <p>第 13～14 回 タイマーを用いた回路</p> <p>第 15～16 回 モータの制御</p> <p>第 17～18 回 自動給水回路</p> <p>第 19～20 回 演習課題</p> <p>第 21～22 回 PLC とその配線方法</p> <p>第 23～26 回 プログラミングと基本命令</p> <p>第 27～28 回 接点の直列、並列接続</p> <p>第 29～30 回 回路ブロックの直列、並列接続</p> <p>第 31～32 回 自己保持回路</p> <p>第 33～34 回 インターロック回路</p> <p>第 35～36 回 タイマーを用いた回路</p> <p>第 37～38 回 センサ等を用いた応用回路</p> <p>第 39～40 回 PLC 演習課題</p>		
教科書、教材等	教科書：『やさしいリレーとシーケンサ』 オーム社		
授 業 の 形 式	教科書に従って授業をすすめ、演習を行う。		
成績評価の方法	レポート提出、定期試験及び授業への積極性を総合して評価する。		
履 修 の 留 意 点	制御工学と関連して学習すること。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8044
科 目 名	施工図実習 I	科目種別	専門（必取得） * 2
科目名：英語	Working drawing practice I	所 属	建築設備科
担 当 教 員 名	高橋 哲子／角田 映子		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	建築設備施工図面のコピー・トレース等によって基礎知識を理解し、基礎的な設備施工図を作成できる。		
授業の概要	給排水および空調等の配管図の製図についての基礎知識を学び、模擬家屋の給排水配管等を実測により図面化する。		
キ ー ワ ー ド	製図トレース、給排水設備、空調設備、模擬家屋		
授 業 計 画	第 1 回 授業内容について 第 2～6 回 模擬家屋の設備製図 第 7～12 回 給排水設備製図 第 13～20 回 空調設備製図		
教科書、教材等	自作プリント		
授 業 の 形 式	実習形式で進める。		
成績評価の方法	各図面の提出状況、出席数及び実習態度で評価する。		
履 修 の 留 意 点	基礎製図が基礎となるので関連づけて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8045
科 目 名	施工図実習Ⅱ	科目種別	専門（必取得） * 2
科目名：英語	Working drawing practiceⅡ	所 属	建築設備科
担 当 教 員 名	長門 三喜男／高橋 哲子／角田 映子		
開講学期／単位数	Ⅲ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	CAD システムを利用し、建築設備図面作図の基本操作ができる。		
授業の概要	建築設備 CAD を使い、RC 躯体図、給排水衛生設備の 2 種類の図面について操作方法を説明しながら作成する。		
キ ー ワ ー ド	JW-CAD、建築設備 CAD 『FILDER_Cube』（ダイキン工業）		
授 業 計 画	第 1～4 回 基本操作と簡単な図形作成 第 5～12 回 RC 躯体図 第 13～20 回 給排水衛生設備図		
教科書、教材等	建築設備 CAD 『FILDER_Cube』（ダイキン工業）、自作プリント		
授業の形式	実習形式で進める。		
成績評価の方法	各図面の提出状況、出席数及び実習態度で評価する。		
履修の留意点	基礎製図、施工図実習Ⅰが基礎となるので関連づけて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8046
科 目 名	施工図実習Ⅲ	科目種別	専門（必取得） * 2
科目名：英語	Working drawing practiceⅢ	所 属	建築設備科
担 当 教 員 名	高橋 哲子／角田 映子		
開講学期／単位数	Ⅳ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	CAD システムを利用し、建築設備図面作図の基本操作ができる。		
授 業 の 概 要	空調設備の図面について操作方法を説明しながら作成する。		
キ ー ワ ー ド	JW-CAD、建築設備 CAD『FILDER_Cube』（ダイキン工業）		
授 業 計 画	第 1～6 回 空調設備図基本操作と簡単な図形作成 第 7～20 回 模擬家屋の配管図 RC 躯体図		
教科書、教材等	建築設備 CAD『FILDER_Cube』（ダイキン工業）、自作プリント		
授 業 の 形 式	実習形式で進める。		
成績評価の方法	各図面の提出状況、出席数及び実習態度で評価する。		
履 修 の 留 意 点	基礎製図、施工図実習Ⅰが基礎となるので関連づけて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8047
科 目 名	建築設備施工実習 I	科目種別	専門（必取得） * 2
科目名：英語	Excution of building facilities practice I	所 属	建築設備科
担当教員名	内田 直史／古川 大史		
開講学期／単位数	I 期／1 単位（10 回）		
授業の到達目標	建築設備の電気設備に関する基礎的な施工について、実習を通して身に付ける。		
授業の概要	第二種電気工事士実技試験対策		
キ ー ワ ー ド	第二種電気工事士		
授 業 計 画	第 1～5 回 電線の切断、圧着方法 第 6～10 回 器具の取り付け方法		
教科書、教材等	教科書：『第二種電気工事士技能試験これで合格！候補問題丸わかり』電気書院		
授業の形式	実習形式で行う。		
成績評価の方法	作製した課題及び授業への積極性を総合して評価する。		
履修の留意点	安全作業に留意し、全ての資格取得を目指す。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8048
科 目 名	建築設備施工実習Ⅱ	科目種別	専門（必取得） * 2
科目名：英語	Excution of building facilities practiceⅡ	所 属	建築設備科
担当教員名	内田 直史／高橋 哲子／古川 大史		
開講学期／単位数	Ⅱ期／6単位（60回）		
授業の到達目標	主に建築設備の電気設備、配管設備に関する基礎的な施工について、実習を通して身に付ける。		
授業の概要	第二種電気工事士実技試験対策 2級技能検定（配管職種 建築配管作業）の実技試験対策および給水配管の施工技術指導を行う。		
キ ー ワ ー ド	第二種電気工事士、2級配管技能士		
授 業 計 画	<p><第二種電気工事士実技試験対策></p> <p>第1～20回 実技試験候補問題対策</p> <p><鋼管の施工方法></p> <p>第21～24回 鋼管の切断作業・鋼管のねじ切り作業 第25～30回 鋼管の加工方法 第31～34回 硬質塩化ビニル管の加工方法 第35～38回 銅管の加工方法 第39～42回 硬質塩化ビニル管と銅管の接合方法 第43～54回 2級配管技能士 実技試験課題組立手順 第55～58回 2級配管技能士 実技試験課題製作 第59～60回 技能五輪岩手県予選 配管職種 建築配管作業</p>		
教科書、教材等	教科書：『第二種電気工事士技能試験これで合格！候補問題丸わかり』電気書院		
授業の形式	実習形式で行う。		
成績評価の方法	作製した課題及び授業への積極性を総合して評価する。		
履修の留意点	安全作業に留意し、全ての資格取得を目指す。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8049
科 目 名	建築設備施工実習Ⅲ	科目種別	専門（必取得） * 2
科目名：英語	Excution of building facilities practiceⅢ	所 属	建築設備科
担当教員名	高橋 哲子／角田 映子		
開講学期／単位数	Ⅲ期／3単位（30回）		
授業の到達目標	建築設備の鋼管配管に関する基礎的な施工について、実習を通して身に付ける。		
授業の概要	上下水道配管施工技術指導を行う。		
キ ー ワ ー ド	上下水道配管施工		
授 業 計 画	第 1～2 回 配管用工具、パイプマシン等の基本操作 第 3～4 回 20A ねじ込み配管、水圧試験 第 5～6 回 50A ねじ込み配管、水圧試験 第 7～12 回 洗面器取付実習 第 13～14 回 100A ねじ込み配管、水圧試験 第 15～16 回 水道本管取り出し実習 第 17～20 回 実習棟、汚水配管実測及び排水縦断図作成 第 21～30 回 排水縦断図作成、施工図と現場実習		
教科書、教材等	自作プリント		
授業の形式	実習形式で行う。		
成績評価の方法	作製した課題及び授業への積極性を総合して評価する。		
履修の留意点	安全作業に留意し、全ての資格取得を目指す。建築設備施工実習Ⅰ、Ⅱとセット受講。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8050
科 目 名	検査及び保守実習 I	科目種別	専門 * 2
科目名：英語	Inspection & maintenance Practice I	所 属	建築設備科
担 当 教 員 名	内田 直史／長門 三喜男／高橋 哲子／角田 映子		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2 単位 (20 回)		
授業の到達目標	<p>主に建築設備の鋼管・塩ビ管・銅管配管に関する基礎的な施工について、実習を通して身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鋼管の切断、ねじ切り作業ができる。 ・硬質塩化ビニル管の切断、冷間接合ができる。 ・銅管の切断、軟ろう付け接合ができる。 ・鋼管、硬質塩化ビニル管、銅管の異種管接合ができる。 		
授 業 の 概 要	技能検定 2 級建築配管実技課題製作演習		
キ ー ワ ー ド	2 級配管技能士		
授 業 計 画	<p>第 1～3 回 硬質塩化ビニル管の加工方法 第 4～6 回 銅管の加工方法 第 7～20 回 2 級配管技能士 実技試験課題製作</p>		
教科書、教材等	自作プリント		
授 業 の 形 式	実習形式で行う。		
成績評価の方法	作業の取り組み姿勢、課題の作製内容で評価する。		
履 修 の 留 意 点	関連科目：建築設備施工実習Ⅱ		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8051
科 目 名	検査及び保守実習Ⅱ	科目種別	専門 * 2
科目名：英語	Inspection & maintenance practice Ⅱ	所 属	建築設備科
担 当 教 員 名	古川 大史／三浦 和洋		
開講学期／単位数	Ⅲ期／2 単位 (20 回)		
授業の到達目標	<p>建築設備施工に必要なガス溶接、アーク溶接における基礎的な技能を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガス溶接作業で使用する可燃性ガス及び酸素容器、導管、吹管、圧力調整器などの取り扱いを身に付ける ・アーク溶接作業で使用する被覆溶接棒、交流アーク溶接機、チップングハンマー、ワイヤーブラシなどの取り扱いを身に付ける。 		
授 業 の 概 要	<p>ガス溶接技能講習、アーク溶接特別教育における実技講習。 機械工学概論（科目 No,8016）と本実習により、技能講習修了証及び特別教育修了証が発行される。</p>		
キ ー ワ ー ド	ガス溶接技能講習、アーク溶接特別教育		
授 業 計 画	<p><ガス溶接></p> <p>第 1 回 オリエンテーション，安全管理に関する学科問題の復習 第 2 回 ガス溶断、ガス溶接作業準備 第 3～4 回 溶断作業 第 5～6 回 突合せ継手溶接、重ね継手溶接 第 7～8 回 T 継手溶接、角継手溶接 第 9～10 回 溶接課題製作</p> <p><アーク溶接></p> <p>第 11 回 オリエンテーション 第 12～13 回 ビード置き 第 14～15 回 突合せ溶接 第 16～17 回 ウィービング法を使った突合せ溶接 第 18～19 回 隅肉溶接 第 20 回 溶接課題製作、片付け</p>		
教科書、教材等	『ガス溶接・溶断作業の安全』『アーク溶接等作業の安全』中央労働災害防止協会、自作プリントなど。		
授 業 の 形 式	教科書、プリントにより授業を進める。		
成績評価の方法	作業の取り組み姿勢、課題の作製内容で評価する。		
履 修 の 留 意 点	関連科目：建築設備施工実習		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8052
科 目 名	検査及び保守実習Ⅲ	科目種別	専門 * 2
科目名：英語	Inspection & maintenance practiceⅢ	所 属	建築設備科
担当教員名	三浦 和洋／古川 大史／外部講師		
開講学期／単位数	Ⅳ期／5単位（50回）		
授業の到達目標	<p>冷凍空調和機器施工に必要な基礎的な技能を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配管曲げ、フレア加工、ロウ付け等各作業ができる。 ・冷凍機の動作原理を理解することができる 		
授業の概要	2級冷凍空調和機器施工実技課題製作演習		
キ ー ワ ー ド	2級冷凍空調和機器施工技能士		
授 業 計 画	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 冷凍空調課題製作準備 第3～5回 現寸図作成、銅管の曲げ練習 第6～10回 ろう付け実習、課題製作練習 第11～12回 冷凍空調基礎、冷凍原理座学（外部講師） 第13～18回 冷凍空調課題製作（外部講師） 第19～26回 計画立案等作業演習 第27～48回 冷凍空調課題製作 第49～50回 期末試験</p>		
教科書、教材等	自作プリントなど。		
授業の形式	プリントにより授業を進める。		
成績評価の方法	作業の取り組み姿勢、課題の作製内容で評価する。		
履修の留意点	関連科目：建築設備施工実習。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8053
科 目 名	液化石油ガス設備実習	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Liquefied petroleum gas equipments practice	所 属	建築設備科
担当教員名	内田 直史／三浦 和洋		
開講学期／単位数	I 期／3 単位（30 回）		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 液化石油ガス設備の理論を理解することができる。 ・ 配管用炭素鋼鋼管の切断ができる。 ・ 適正ねじを切ることができる。 ・ シールテープを用いた管と継ぎ手の接続ができる。 ・ パイプレンチを用いた配管の組み立てができる。 ・ 自記圧力を用いた気密試験ができる。 		
授業の概要	<p>経済産業省から液化石油ガス設備士の養成施設として認定を受けていることから資格取得を目標とする。</p>		
キ ー ワ ー ド	<p>液化石油ガス設備、配管用炭素鋼鋼管（SGP）、ねじ込み式可鍛铸铁製継ぎ手、ねじ切り器、金切り鋸、リーマ、パイプレンチ、シールテープ、機械式自記圧計、チャート紙、気密試験</p>		
授 業 計 画	<p>第 1～4 回 鋼管の切断作業 第 5～8 回 鋼管のねじ切り作業（適正ねじの製作） 第 9～12 回 鋼管の組み立て作業 第 13 回 自記圧力を用いた気密試験方法 第 14～28 回 検定課題製作練習 第 29～30 回 実技試験</p>		
教科書、教材等	教科書：『液化石油ガス設備施工マニュアル』 高压ガス保安協会及び自作プリント		
授 業 の 形 式	実習形式で行う。		
成績評価の方法	作製した課題、製作レポート及び授業への積極性を総合して評価する。		
履 修 の 留 意 点	液化石油ガス設備士技能試験合格を目標とすると共に、以降における建築配管職種技能検定への足がかりとする。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8054
科 目 名	建築基礎製図	科目種別	専門 * 2
科目名：英語	Building basic plan drafting	所 属	建築設備科
担当教員名	長門 三喜男／三浦 和洋／外部講師		
開講学期／単位数	Ⅲ期／3 単位（30 回）		
授業の到達目標	<p>「基礎製図」で学んだ木構造や鉄筋コンクリート造、鉄骨造の製図の模写や座学を基に、木構造及び鉄筋コンクリート構造の自主設計を行うことにより、それぞれの建築における平面計画のあり方を始め、構造・工法の特徴や納まりを理解し、建築設計の手法を身に付ける。</p>		
授業の概要	<p>木造専用住宅設計は二級建築士製図課題と同程度のもので、鉄筋コンクリート造設計は一級建築士試験製図課題と同程度のもので、それぞれエスキス指導を中心として、これまで学んできた知識を再構築させる授業を展開することとする。</p>		
キ ー ワ ー ド	二級建築士設計製図		
授 業 計 画	<p>第 1 回 木造専用住宅の設計の進め方 第 2～6 回 エスキスチェック 第 7～10 回 図面作成 第 11 回 鉄筋コンクリート造による店舗付き集合住宅の設計の進め方 第 12～16 回 エスキスチェック 第 17～20 回 図面作成 第 21 回 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）によるコミュニティセンターの設計の進め方 第 22～26 回 エスキスチェック 第 27～30 回 図面作成</p>		
教科書、教材等	自作プリントおよび各種設計製図資料等		
授業の形式	設計課題は、設計条件を検討の上、案をまとめエスキスチェックを受ける。		
成績評価の方法	それぞれの作品について評価を行う。		
履修の留意点	「建築計画Ⅰ・Ⅱ」「関連法規」「建築構造Ⅰ・Ⅱ」等と関連付けて指導する。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8055
科 目 名	建築設備設計製図	科目種別	専門 * 2
科目名：英語	Building facilities plan drafting	所 属	建築設備科
担 当 教 員 名	内田 直史／長門三喜男／高橋 哲子／三浦 和洋／古川 大史		
開講学期／単位数	IV期／4 単位（40 回）		
授業の到達目標	建築設備の設計課題を通して、基本的な設計及び製図の手法を身に付ける。		
授業の概要	個人住宅及び集合住宅における給排水衛生設備、空気調和設備、ガス設備、消防設備等の設計製図について学ぶ。		
キ ー ワ ー ド	給排水衛生設備、空気調和設備、ガス設備、消防設備の設計製図		
授 業 計 画	第 1～8 回 給水設備の設計製図 第 9～16 回 排水・衛生設備の設計製図 第 17～24 回 空気調和設備の設計製図 第 25～32 回 ガス設備の設計製図 第 33～40 回 消防設備の設計製図		
教科書、教材等	自作プリント、資料		
授業の形式	プリント、資料等によって授業を進める。		
成績評価の方法	期末試験及びレポート等で評価する。		
履修の留意点	設備設計、施工業務につながる科目である。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8056
科 目 名	職場実習	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	On-the-job training	所 属	建築設備科
担当教員名	内田 直史／長門三喜男／高橋 哲子／三浦 和洋／古川 大史		
開講学期／単位数	I 期／2 単位（5 日間）		
授業の到達目標	企業（事業所）での建築施工に関わる現場の職場実習を通して、職業観や勤勉の精神を涵養し、仕事の内容を理解することができる。		
授業の概要	受入先事業所と担当教員により作成した実習カリキュラムに基づき行う。 実習期間の中間に、担当教員が事業所を訪問して実習状況を確認するとともに後半の実習について指導する。		
キ ー ワ ー ド	インターンシップ		
授 業 計 画	カリキュラム例 第 1 日目 オリエンテーション・安全教育、現場における実習等を各事業所にて実施 第 2 日目 現場における実習等 第 3 日目 〃 第 4 日目 〃 第 5 日目 現場における実習等及び報告書等の作成等		
教科書、教材等	各事業所の指導による。		
授 業 の 形 式	各事業所の指導による。		
成績評価の方法	各事業所の評価及び次週終了後のレポートにより総合して評価する。		
履 修 の 留 意 点	普段から職業人としてのマナー・エチケットについて身につける。		
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8057
科 目 名	卒業研究 I	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Graduation study I	所 属	建築設備科
担当教員名	内田 直史／長門 三喜男／高橋 哲子／三浦 和洋／古川 大史／角田 映子		
開講学期／単位数	Ⅲ期／1 単位（10 回）		
授業の到達目標	<p>卒業研究は、当短大で学んだ全教科を統合化し、自分で選定したテーマに基づいた設計・製作・研究を通じて、以下の項目を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選定したテーマを実現するために必要な情報を収集することができる。 ・担当教員とともに研究のゴールを設定し、それに基づいた計画を立て、自らのスケジュール管理ができる。 ・自発的に学び、実践力と問題解決能力を養う。 ・論理的思考に基づきトラブルシューティングができる。 ・研究結果に対するのプレゼンテーション力、報告書作成能力を養う。 		
授業の概要	<p>テーマ選定及びテーマ毎の担当教員のアドバイスを受けながら、自主的な研究・製作を行う。</p>		
キ ー ワ ー ド	企画、設計、製作		
授 業 計 画	<p>第 1 回 卒業研究の進め方 第 2～10 回 卒業研究テーマ・製作物等の決定・仕様検討（基本設計）</p>		
教科書、教材等	各自研究テーマを実施する。		
授 業 の 形 式	卒業研究実施報告書を指導担当に毎日提出して報告する。		
成績評価の方法	卒業研究発表会、卒業論文を基に評価する。		
履 修 の 留 意 点			
参考・推薦図書等			

年 度	2025	科目番号	8058
科 目 名	卒業研究Ⅱ	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Graduation studyⅡ	所 属	建築設備科
担当教員名	内田 直史／長門 三喜男／高橋 哲子／三浦 和洋／古川 大史／角田 映子		
開講学期／単位数	Ⅳ期／13 単位（130 回）		
授業の到達目標	<p>卒業研究は、当短大で学んだ全教科を統合化し、自分で選定したテーマに基づいた設計・製作・研究を通じて、以下の項目を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選定したテーマを実現するために必要な情報を収集することができる。 ・担当教員とともに研究のゴールを設定し、それに基づいた計画を立て、自らのスケジュール管理ができる。 ・自発的に学び、実践力と問題解決能力を養う。 ・論理的思考に基づきトラブルシューティングができる。 ・研究結果に対するのプレゼンテーション力、報告書作成能力を養う。 		
授業の概要	<p>テーマ毎の担当教員のアドバイスを受けながら、自主的な研究・製作を行う。 卒業研究・製作発表・報告書提出</p>		
キ ー ワ ー ド	企画、設計、製作		
授 業 計 画	<p>10 月：製作物等の仕様決定（基本設計）</p> <p>10 月：詳細設計、材料注文、製作開始</p> <p>12 月：製作、特性測定等</p> <p>1 月：製作物の組み立て・仕様確認、データ処理・分析</p> <p>2 月：卒業研究発表（準備および発表会）、産技短展（準備および展示会）</p> <p>3 月：卒業研究報告書のまとめ</p>		
教科書、教材等	各自研究テーマを実施する。		
授 業 の 形 式	卒業研究実施報告書を指導担当に毎日提出して報告する。		
成績評価の方法	卒業研究発表会、卒業論文を基に評価する。		
履 修 の 留 意 点	自分で具体的かつ詳細な目標を設定し、自己管理を行うこと。卒業研究Ⅰとセット受講		
参考・推薦図書等			



岩手県立産業技術短期大学校水沢キャンパス講義要目 =SYLLABUS=

2025 年 4 月 発行

発行 岩手県立産業技術短期大学校水沢校
〒 023-0003
岩手県奥州市水沢佐倉河字東広町 66-2
TEL 0197(22)4422 (代表)
Fax 0197(23)6189
